

閲覧用

(写真・デザイン・イラストはイメージです)

第7次福島市総合計画 基本構想・基本計画

2027⇒2034

花めく 次世代文教都市 ふくしま

素 案



イラスト

福島市

イラスト

目次

はじめに	 5
体系図	 9
基本構想	11
基本計画	15
福島市人口ビジョン	84

挨拶文

総合計画とは？

1 なぜ計画をつくるの？

いま、社会は大きな転換期を迎えています。

人口減少・少子高齢化の急速な進行、デジタルをはじめとする技術の進化、自然災害など深刻化する気候危機、進展する国際化と多文化共生のあり方、世界の動向により刻々と変化する経済情勢など、社会構造は目まぐるしく変化しています。

これらに加えて、福島市は、まちのにぎわい創出や美しい自然の保全など、特に力を入れて取り組むべき重要な課題を抱えています。

こうした社会情勢の変化や多様な価値観が共存する中であっても、市民一人ひとりが安心して暮らし、挑戦でき、誰もが自分らしく、可能性を信じていることができる社会を実現するため、その羅針盤となる「第7次 福島市総合計画」をつくります。

2 計画でなにを目指すの？

将来の福島市の姿がみんなに共有され、その実現に向けて市民一人ひとりが一歩を踏み出すことが大切です。

具体的には、福島市の現在地と未来が見える化されることで、立場の違う方でも同じ方向を共有することができ、それぞれの取組が単独としての成果だけではなく、連携して効果を生み出し、その結果を示すことで見直しと改善が自然に続く状態を目指します。

(1) 計画期間

将来の福島市として、8年後の姿を思い描きます。

そのため、計画の期間は2027年度(令和9年度)から2034年度(令和16年度)とします。

なお、社会情勢などを踏まえて、計画期間の中間となる**4年後に内容の見直し**を行います。

(2) SDGsの目標との関係

SDGs(持続可能な開発目標)とは、2030年(令和12年)までに持続可能で誰一人取り残さない社会を目指す国際目標です。

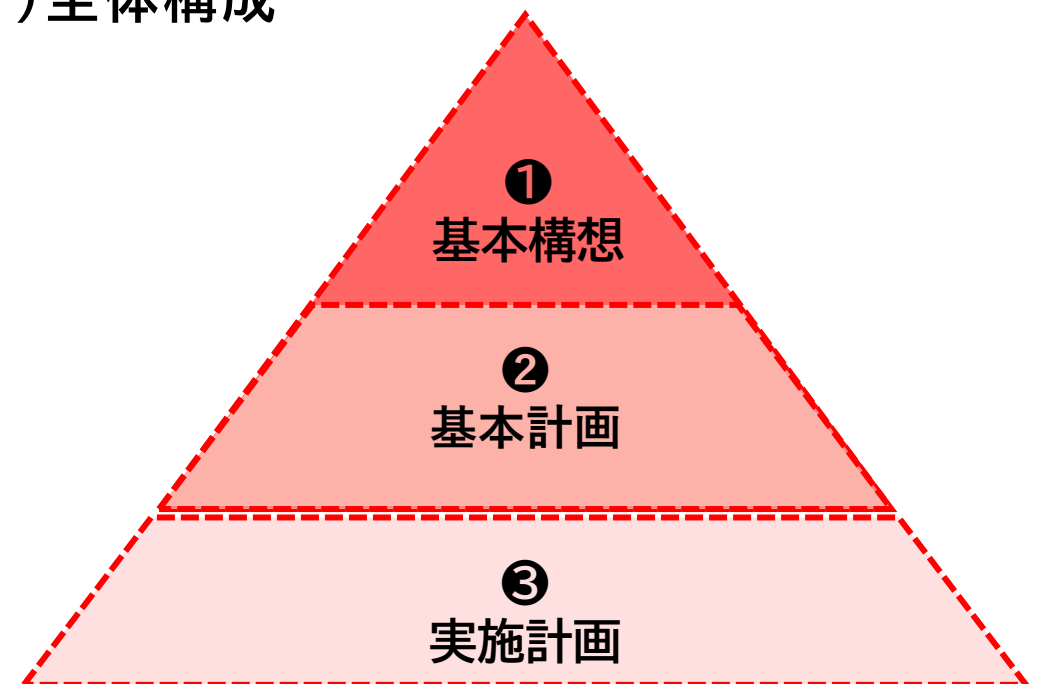
福島市においても、この趣旨に賛同し、引き続きSDGsの達成に貢献していくとともに、2030年のその先も見据え、SDGsの次なる目標に関する動向も踏まえながら、まちづくりに関する様々な取組を進めていきます。

3 どのような計画なの？

福島市の現在地と未来を「見える化」し、ともに考え、つなぎ、実行し、改善し続ける仕組みを構築します。

- ① 見える化 まちの現状と成果を、誰にでもわかる形で可視化する
- ② 共創・共有 市民・企業・行政が対話し、同じ方向を共有しながら動く関係をつくる
- ③ 連携・実行 取組を分野横断でつなぎ、効果を生み出す形で実行する
- ④ 改善・進化 成果の可視化と評価を通じて、見直しと改善を回し続ける

(1) 全体構成



① 基本構想

みんなで実現する福島市の将来の姿である「共創で目指す未来」を描いたものです。基本構想「花めく 次世代文教都市 ふくしま」⇒詳しくはP11～

② 基本計画

共創で目指す未来を実現するための設計図として、政策の方向性や分野ごとに取組むプロジェクトを体系的に示すものです。

すべての取組の共通基盤となる「土台」のもと、3つの方向性、9の分野別政策、22のプロジェクトで構成します。⇒詳しくはP15～

③ 実施計画

基本計画に盛り込んだ各プロジェクトに紐づく成果指標を定め、進捗管理・評価検証を毎年行い、共創で目指す未来への実現度をはかるものです。

結果については、議会へ報告し、みなさんに公表します。

(2) 総合戦略と人口ビジョンの位置付け

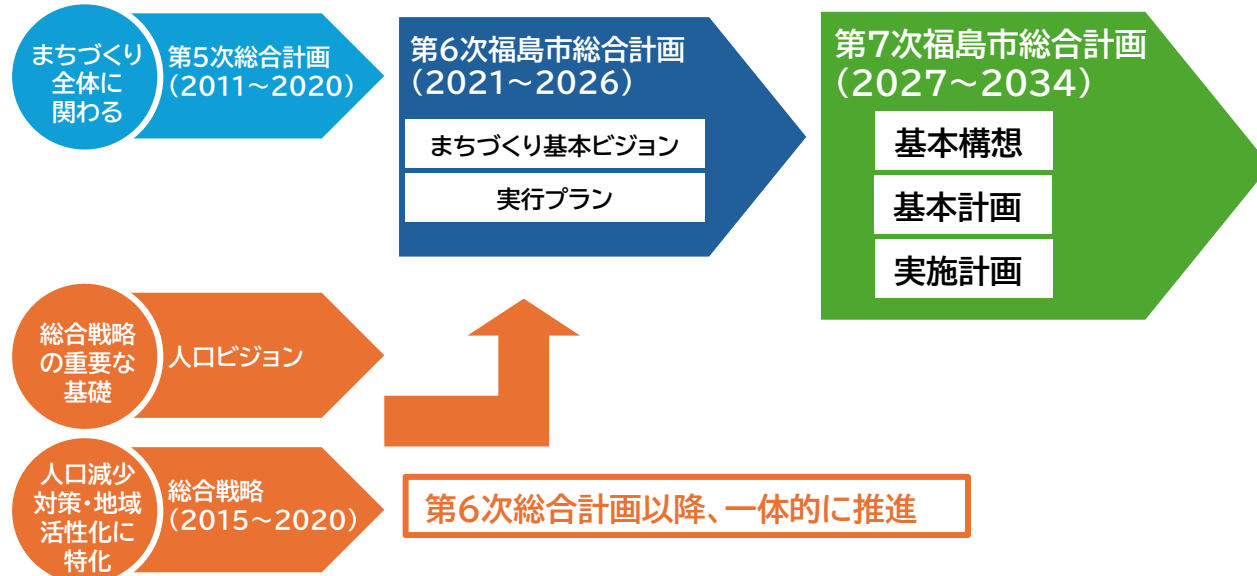
国は2014年(平成26年)に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、これを皮切りに「地方創生」を掲げ、東京一極集中の是正や地方の人口減少抑止などに取り組んできました。

福島市では、地方創生に係る国の総合戦略に基づき「福島市総合戦略」を策定し、2021年度(令和3年度)には、「総合戦略」と「人口ビジョン」を総合計画に一体化し、人口減少対策などに取り組んできました。

人口減少は全国的な課題であり、その影響は、大きくなりつつありますが、一方で、社会のあり方を見直すひとつの転機でもあります。今後は、人口減少を可能な限り緩やかにするとともに、人口減少社会に適応し、市民一人ひとりの豊かさを高めることが求められており、まちづくりに関するすべての分野と連動して総合的に取り組むことが必要です。

そこで、この第7次福島市総合計画についても、「総合戦略」と「人口ビジョン」を含めた構成とし、一体的に推進していきます。

【総合計画と人口ビジョン・総合戦略の一体化のイメージ】



策定プロセス

庁内での検討

市民・有識者・市議会の参画

2024年(令和6年)

- 庁内策定委員会設置(5月)
- 庁内策定委員会(第1回～3回)

- 市民アンケート(7～8月)
※3,000人対象
- 市民ワークショップ(第1回～2回)
※約100名で構成

2025年(令和7年)

- 庁内策定委員会(第4回～7回)

- 市民ワークショップ(第3回)
- 有識者懇談会(第1回～6回)
- 市議会全員協議会(9月)

- 市議会12月定例会議にて計画策定期間を1年後ろ倒しする方針を表明
⇒ データに基づくさらなる磨き上げを実施

2026年(令和8年)

- 庁内策定委員会(第8回)
- 福島市データブック公開(3月)

- 市議会3月定例会議で第6次福島市総合計画の計画期間の変更を議決

- 庁内策定委員会(第9回～15回)
- 有識者懇談会(第7回～9回)

- 計画素案についてパブリックコメントの実施(8～9月)

- 庁内策定委員会(第16回～17回)
※予定
- 有識者懇談会(第10回)※予定

- 市議会12月定例会議に基本構想・基本計画議案の提出※予定

2027年(令和9年)

- 「第7次福島市総合計画」がスタート※4月予定

第7次 福島市総合計画 2027年度(令和9年度)～2034年度(令和16年度)

基本構想

共創で
目指す未来

花めく 次世代文教都市 ふくしま

基本計画

共創するための設計図

土台

=自分を知る=
データ行政

×

=実践する=
成功体験づくり

×

=時代を読む=
構造変化への対応
人口減/技術進化/気候危機/国際化/経済情勢

方向性

ひとづくり -安心社会-

誰もが心身の不安なく、自分の可能性を信じ成長し続けられる状態

(1)成長と可能性を
信じられるまち

【こども・若者/子育て/教育】

(2)心身ともに健康で、
支え合うまち

【健康/医療/福祉】

(3)居場所と生きがいを持てるまち

【多様性・共生社会/コミュニティ・生涯学習/文化・スポーツ】

まちづくり -挑戦文化-

人の成長や挑戦が生まれ続けることで、経済が循環する状態

(4)快適に移動
・生活できるまち

【まちのリノベーション・回遊性/移動の自由・公共交通/都市インフラ】

(5)多様な産業が成長し、
経済が豊かなまち

【産業・イノベーション・雇用/農業】

(6)人を惹きつけ、
つながりが広がるまち

【観光/関係人口・移住定住】

未来づくり -価値向上-

社会全体の価値を持続的に高め続ける状態

(7)災害や危機に強く、
安全に暮らせるまち

【防災・減災/復興】

(8)自然と共生し、環境に
やさしい持続可能なまち

【環境・脱炭素】

(9)効率的で質の高い地域経営を行い、発展し続けるまち

【情報発信/デジタル・AI/地域経営】

基本構想

花めく 次世代文教都市 ふくしま

イラスト

●花めく※1

福島市のかけがえのない財産である彩り豊かで美しい「自然」が守られ、次世代にしっかりと継承されている情景と、一方で、市街地に目を向ければ、こどもからお年寄りまで、多種多様な人たちが集い、活発な経済活動がなされ、「にぎわい」があふれている様子を「花めく」という言葉で表現しました。

●次世代文教都市

次世代文教都市とは、すべてのこどもたちが笑顔で成長できる環境を基盤に、こどもから高齢者まで、誰もが安心して暮らし、学び、文化や教育に親しみながら自らの可能性に挑戦できる社会を実現するまちです。

教育機関や文化施設が集中する本市の強みを生かしながら、ひとづくり・まちづくり・未来づくりが相互に関連し、挑戦の文化が新たな価値や産業・経済を生み出し、その成果が次の挑戦へとつながる好循環を創出することで、持続可能な発展と将来の繁栄を目指します。

これら2つの概念を踏まえ、一人ひとりの価値が咲き、その力がつながることで、まちの価値がひらき、広がり続ける状態を創造します。また、市民、地域、企業、行政など、それぞれの花が集い、ともに新しいまちをつくり続ける姿を実現します。

※1 言葉の意味・・・①はなやかにみえる。 にぎやかな状態になる。 ② 時節にあって栄える。

イラスト

私たちは、時代の変化や東日本大震災・原子力災害という困難を乗り越えながら、挑戦と成長を続けてきました。

今、人口減少や少子高齢化、技術革新、気候変動、国際化など、社会構造は大きく変化し、先行きが不透明な時代を迎えています。こうした時代だからこそ、持続可能な市政運営の確かな土台を築き、明確なビジョンのもと、未来に向けた挑戦を進めていかなければなりません。

私たちのまち福島市は、豊かな自然を一貫して大切にしながら、時代の変化に応じて養蚕業や金融業など都市機能を発展させ、県都として歩んできました。幾多の困難に直面しても、そのたびに知恵を結集し、新たな道を切り拓いてきた挑戦の精神こそ、私たちが未来へ受け継ぐべき大きな財産です。

その歩みを未来につなぐため、私たちは、これからの市政運営において新たに、客観的データに基づく「見える化」、小さな成功体験の積み重ね、そして社会構造の変化を見据えた対応の3つをまちづくりの土台とします。そして、市民一人ひとりの気づきや実践を、まち全体の確かな成長へとつなげていきます。

私たちが目指す姿は、「花めく次世代文教都市」です。「花めく」とは、豊かな資源が守り受け継がれ、一人ひとりの持つ可能性が花ひらき、新たな価値や挑戦が次々と生まれ、まち全体ににぎわいと活力があふれる姿を表しています。

その実現に向け、私たちは安心して暮らせる社会を築く「ひとづくり」、挑戦の文化を育む「まちづくり」、暮らしの価値と可能性を広げる「未来づくり」を一体的に進めます。人が育ち、人がつながり、多様な挑戦が豊かな経済と未来を築く好循環を生み出していきます。

このまちの未来をつくる主役は、私たち一人ひとりです。市民、地域、企業、行政などあらゆる主体が力を合わせ、ともに考え、実践することで、こどもから高齢者まで、誰もが自分らしく輝き、次世代へ誇れる福島市を目指します。

●共創

世代や性別などに関わらず、多様な主体がお互いの立場を理解し合い、目標設定の段階から連携し、解決しなくてはならない「地域の課題」を把握・共有しながら、地域としての新たな魅力や価値を共に創り上げていくこと。

基本計画

— 共創するための設計図 —

【基本計画の概要説明】

共創で目指す未来を実現させるための設計図として、政策の方向性や分野ごとに取り組む施策を示すものです。

本市のまちづくりは、“データ行政”“成功体験づくり”“構造変化への対応”の横断的な土台のもと、3つの方向性として「ひとづくり」を起点とした「まちづくり」「未来づくり」、9の分野別政策・22のプロジェクトを体系的に展開します。

これらの取組が生み出す好循環を通じて基本構想の実現を目指します。



■土台
本市が目指す未来を実現するため、すべての施策を支え、分野横断的に機能する共通の基盤となる考え方です。

＝自分を知る＝
データ行政

客観的なデータに基づき、現状や成果を可視化し、市民と共有することで、根拠ある政策判断と効果的な施策の推進につなげます。

＝実践する＝
成功体験づくり

市民一人ひとりの挑戦と成功を積み重ね、その実感を共有することで、挑戦が連鎖するまちをつくれます。

＝時代を読む＝
構造変化への対応

人口減/技術進化/気候危機/国際化/経済情勢

人口減少、技術の進化、気候危機、国際化、経済情勢の変化などに適応しながら、持続可能なまちづくりを進めます。

■3つの方向性
「ひとづくり」を基盤として、「まちづくり」へと展開し、その成果が「未来づくり」へとつながる好循環を生み出す構造としています。



- ①ひとづくり-安心社会-
誰もが心身の不安なく、自分の可能性を信じ成長し続けられる状態
- ②まちづくり-挑戦文化-
人の成長や挑戦が生まれ続けることで、経済が循環する状態
- ③未来づくり-価値向上-
社会全体の価値を持続的に高め続ける状態

イラスト

9の分野別政策と22のプロジェクト

イラスト

ひとづくり —安心社会—

誰もが心身の不安なく、自分の可能性を信じ成長し続けられる状態

01

成長と可能性を信じられるまち

【こども・若者/子育て/教育】

- (1)こども・若者の成長と活躍を社会で支える環境づくり
- (2)切れ目のない子育て支援と相談体制の強化
- (3)個性を磨き、才能を拓く知育・徳育・体育の充実と保育・教育環境の整備

02

心身ともに健康で、支え合うまち

【健康/医療/福祉】

- (4)健康で元気に過ごせる環境づくり
- (5)関係機関との連携による地域医療の強化・保健衛生の充実
- (6)支援を必要とする人を確実に支える福祉の実現

03

居場所と生きがいを持てるまち

【多様性・共生社会/コミュニティ・生涯学習/文化・スポーツ】

- (7)多様性を認め合う共生社会の推進
- (8)つながりの形成と学びの環境の充実
- (9)身近に親しみ、地域の活力となる文化・スポーツの推進

イラスト

まちづくり —挑戦文化—

人の成長や挑戦が生まれ続けることで、経済が循環する状態

04

快適に移動・生活できるまち

【まちのリノベーション・回遊性/移動の自由・公共交通/都市インフラ】

- (10)まちの磨き上げによる魅力創出と回遊性の向上
- (11)利便性の高い公共交通網の再整理
- (12)都市インフラの最適化

05

多様な産業が成長し、経済が豊かなまち

【産業・イノベーション・雇用/農業】

- (13)産業の好循環と若者の定着
- (14)持続可能な地域農林業の確立とくだもの王国ふくしまの強化

06

人を惹きつけ、つながりが広がるまち

【観光/関係人口・移住定住】

- (15)点を線にする地域資源の発掘とブランド化の推進
- (16)関係人口の創出と移住定住支援

イラスト

未来づくり —価値向上—

社会全体の価値を持続的に高め続ける状態

07

災害や危機に強く、安全に暮らせるまち

【防災・減災/復興】

- (17)危機管理体制・地域防災力の強化
- (18)震災の教訓の継承と復興の推進

08

自然と共生し、環境にやさしい持続可能なまち

【環境・脱炭素】

- (19)脱炭素社会の形成と環境保全・自然との共生の推進

09

効率的で質の高い地域経営を行い、発展し続けるまち

【情報発信/デジタル・AI/地域経営】

- (20)伝わる、動く戦略的な情報発信
- (21)あらゆる利便性を飛躍させるDX・AXの推進
- (22)効率的で質の高い地域経営

分野別政策とプロジェクトページの見方

01

分野別政策名
基本計画で定める9の分野別政策を示しています。

02

分野・プロジェクト名
分野別政策に紐づく分野と22のプロジェクトを示しています。

05

8年後の姿
プロジェクトが目指す8年後の姿を示しています。

06

未来に向けた施策の方向性
目標を達成するために、取り組む施策の方向性を示しています。

基本計画 9の分野別政策

1 成長と可能性を信じられるまち

分野別政策名

分野・プロジェクト名

子ども・若者

(1) 子ども・若者の成長と活躍を社会で支える環境づくり

子育て

(2) 切れ目のない子育て支援と相談体制の強化

教育

(3) 個性を磨き、才能を拓く知育・徳育・体育の充実と保育・教育環境の整備

主なデータから見る現状

年齢別(3区分)人口

生産年齢人口(15～64歳)は2000年以降減少の一途をたどっている。

年齢別社会増減

特に20～39歳では毎年600～800人の大幅な転出超過となっている。

認可保育施設数と在園児数・待機児童数

入所待機児童数は100人を超えて横ばいの状態にある。

市立小学校の不登校児童数・いじめ認知件数

不登校の人数は2017年以降増加傾向にある。

現状と課題

人口減少・少子化が進行し、子ども・若者を取り巻く環境が変化しています

●本市では、人口減少や少子化の進行に加え、特に20～30歳代の若い世代の転出が続いており、次世代を担う人材の減少が課題となっています。これに伴い、働き手の不足や経済活動の停滞、税収の減少などが懸念され、社会サービスの提供や生活インフラの維持が困難になることが想定されます。

●少子化が進行する中で、ライフスタイルや価値観が変化し、保育・教育に対するニーズは多様化・高度化しています。幼児教育・保育の受け皿の確保と「質」の向上、個別最適な学びの充実などが求められています。

●地域のつながりの希薄化による子育て世帯の孤立や物価高騰等による経済的負担感の増大などの課題がある中で、すべての子どもたちが健やかに成長していくためには、子育て世帯が地域とつながりを持ち、地域全体での助け合いや切れ目のない支援が必要です。

●本市の1000人当たりの不登校出現数は増加傾向にあり、その他にも児童虐待、ヤングケアラー⁽¹⁾など、子ども・若者を取り巻く環境は深刻化・複雑化していることから、子ども・若者に寄り添った相談・支援体制の強化、対応する人材の確保などがより重要となります。

●子育てや教育を支える公立幼児教育・保育施設や学校施設の老朽化など課題が生じており、将来にわたって子どもたちが快適で安心して学べる環境整備が求められています。

(1) ヤングケアラー：本人は大人が担うと想定されている家事や家族の世帯などを日常的に行っている子ども・若者のこと。

基本計画 22のプロジェクト

分野 子ども・若者

(1) 子ども・若者の成長と活躍を社会で支える環境づくり

8年後の姿

子どもや若者が多様な体験や挑戦を重ね、自らの可能性を広げています。
安心して過ごせる居場所や活躍の場が広がり、一人ひとりが自信と希望を持ちながら、自分らしく成長しています。

みんなの願い

子どもや若者が、気軽に意見を言える機会が充実している！

放課後に子どもが安全に過ごせる居場所がある！

様々な人格や個性が尊重され、子どもの主体性が大切にされている！

若者に出会いの場を提供してほしい！

この分野の主な課題

(詳細はP21、22)

- ・子ども・若者の活躍
- ・子ども・若者への支援
- ・地域で育む環境づくり

未来に向けた施策の方向性

① 子ども・若者の権利の擁護

子ども・若者が周りに見守られ大切にされていると実感できるよう、子ども・若者の権利の尊重や周知啓発に関する取組を推進します。
施策例：「福島市子どものえがお条例」の普及啓発、児童虐待防止 など

② 子ども・若者の意見表明・社会参画

子ども・若者が自由に意見を発信する機会や社会参画する機会を創出し、その意見を社会全体で後押しする環境をつくり出します。
施策例：ふくしまっ子未来トーク、子ども・若者意見箱 など

③ 地域全体で子ども・若者や子育てを応援

地域や社会全体で、子ども・若者、子育て家庭を温かく見守り、応援する気運を高めます。
施策例：「福島市子どものえがお条例」アクションプランの実施、地域のこどもの居場所づくり支援(こども食堂) など

④ 出会いのサポート

結婚を希望する方々の出会いの機会を創り、その願いが実現するよう支援します。
施策例：婚活イベントによる出会いの場創出、伴走型結婚支援 など

⑤ 体験機会の創出

地域や家庭、学校等が連携するとともに、企業の協力も得ながら、地域の「ひと、もの、こと」と積極的にしかかわる探究的な学びを推進します。
施策例：ふくしま・ふれあい・夢プラン、中学生ドリームアップ など

関連する個別計画等

- 福島市子ども計画
- 福島市教育振興基本計画
- 福島市生涯学習振興計画
- 福島市子ども読書活動推進計画
- 男女共同参画ふくしまプラン(福島市男女共同参画基本計画)

03

主な現状のデータ
現状がわかるデータを
示しています。

04

現状と課題
この分野別政策に関わる現状、
解決したい課題を示しています。

07

みんなの願い
市民アンケートやワークショップなどを通じて
いただいた願いの実現を目標とします。

08

この分野の主な課題
データなどを踏まえ、プロジェクトが
取り組むべき課題を示しています。

09

関連する個別計画等
プロジェクトに関連する分野ごとの
主な個別計画等を記載しています。

1 成長と可能性を 信じられるまち

分野名・プロジェクト名

こども・若者

(1) こども・若者の成長と活躍を社会で支える環境づくり

子育て

(2) 切れ目のない子育て支援と相談体制の強化

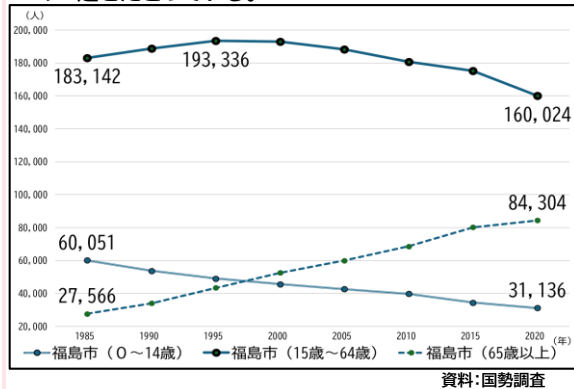
教育

(3) 個性を磨き、才能を拓く知育・徳育・体育の充実と保育・教育環境の整備

主なデータから見る現状

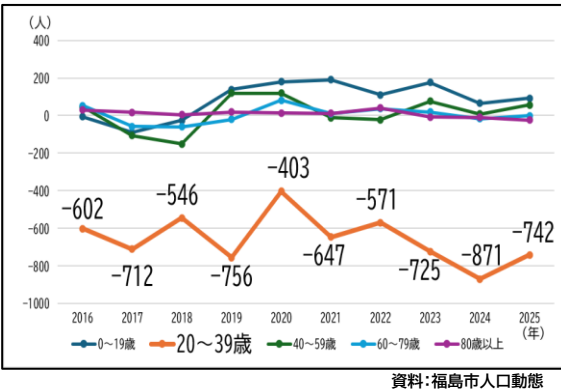
年齢別(3区分)人口

生産年齢人口(15～64歳)は2000年以降減少の一途をたどっている。



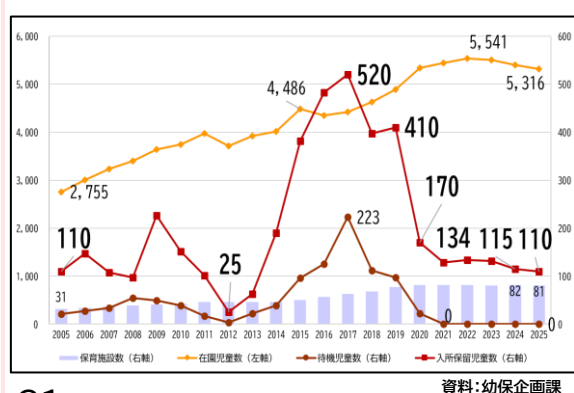
年齢別社会増減

特に20～39歳では毎年600～800人の大幅な転出超過となっている。



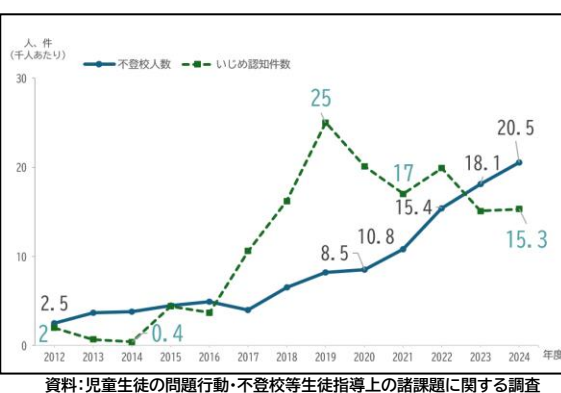
認可保育施設数と在園児数・待機児童数

入所保留児童数は100人を超えて横ばいの状態にある。



市立小学校の不登校児童数・いじめ認知件数

不登校の人数は2017年以降増加傾向にある。



現状と課題

人口減少・少子化が進行し、こども・若者を取り巻く環境が変化しています

●本市では、人口減少や少子化の進行に加え、特に20～30歳代の若い世代の転出が続いており、次世代を担う人材の減少が課題となっています。これに伴い、働き手の不足や経済活動の停滞、税収の減少などが懸念され、社会サービスの提供や生活インフラの維持が困難になることが想定されます。

●少子化が進行する中で、ライフスタイルや価値観が変化し、保育・教育に対するニーズは多様化・高度化しています。幼児教育・保育の受け皿の確保と「質」の向上、個別最適な学びの充実などが求められています。

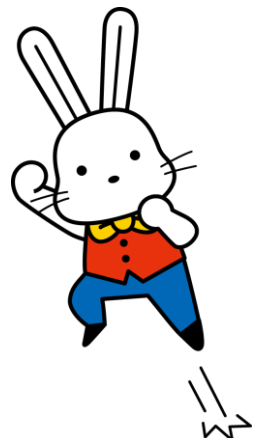
●地域のつながりの希薄化による子育て世帯の孤立や物価高騰等による経済的負担感の増大などの課題がある中で、すべてのこどもたちが健やかに成長していくためには、子育て世帯が地域とつながりを持ち、地域全体での助け合いや切れ目のない支援が必要です。

●本市の1000人当たりの不登校出現数は増加傾向にあり、その他にも児童虐待、ヤングケアラー⁽¹⁾など、こども・若者を取り巻く環境は深刻化・複雑化していることから、こども・若者に寄り添った相談・支援体制の強化、対応する人材の確保などがより重要となります。

●子育てや教育を支える公立幼児教育・保育施設や学校施設の老朽化など課題が生じており、将来にわたってこどもたちが快適で安心して学べる環境整備が求められています。



【若者を対象としたワークショップ・福島っ子ベース】



(1)

こども・若者の成長と活躍を社会で支える環境づくり

【こどもたちの遊ぶ様子】

8年後の姿

こどもや若者が多様な体験や挑戦を重ね、自らの可能性を広げています。
安心して過ごせる居場所や活躍の場が広がり、一人ひとりが自信と希望を持ちながら、自分らしく成長しています。

みんなの想い

こどもや若者が、気軽に意見を言える機会が充実している！

放課後にこどもが安全に過ごせる居場所がある！

様々な人格や個性が尊重され、こどもの主体性が大切にされている！

若者に出会いの場を提供してほしい！



この分野の主な課題

(詳細はP21、22)

- ・こども・若者の活躍
- ・こども・若者への支援
- ・地域で育む環境づくり

未来に向けた施策の方向性



① こども・若者の権利の擁護

こども・若者が周りから見守られ大切にされていると実感できるよう、こども・若者の権利の尊重や周知啓発に関する取組を推進します。

施策例：「福島市子どものえがお条例」の普及啓発、児童虐待防止 など

② こども・若者の意見表明・社会参画

こども・若者が自由に意見を発信する機会や社会参画する機会を創出し、その意見を社会全体で後押しする環境をつくります。

施策例：ふくしまっ子未来トーク、こども・若者意見箱 など

③ 地域全体でこども・若者や子育てを応援

地域や社会全体で、こども・若者、子育て家庭を温かく見守り、応援する気運を高めます。

施策例：「福島市子どものえがお条例」アクションプランの実施、地域のこどもの居場所づくり支援(こども食堂) など

④ 出会いのサポート

結婚を希望する方々の出会いの機会を創り、その願いが実現するよう支援します。

施策例：婚活イベントによる出会いの場創出、伴走型結婚支援 など

⑤ 体験機会の創出

地域や家庭、学校等が連携するとともに、企業の協力も得ながら、地域の「ひと、もの、こと」と積極的にかかわる探究的な学びを推進します。

施策例：ふくしま・ふれあい・夢プラン、中学生ドリームアップ など

関連する個別計画等

- 福島市こども計画 ○福島市教育振興基本計画 ○福島市生涯学習振興計画
○福島市子ども読書活動推進計画 ○男女共同参画ふくしまプラン(福島市男女共同参画基本計画)

(2) 切れ目のない子育て支援と相談体制の強化

【地域子育て支援センターの様子】

8年後の姿

妊娠・出産から子育てまで切れ目なく支える環境が整い、地域全体で子育てを応援するつながりが広がり、こどもたちの健やかな成長を支えています。

みんなの想い

初めての妊娠や出産でも相談できる体制が整っている！

みんなで支え合い、子育てと仕事が両立できる環境が整っている！

保育の受け皿が拡大し、保育士が確保され、待機児童数ゼロが達成されている！

不安を抱えて育児をしている親のために、専門職のきめ細かいサポートが整っている！

こどもと子育て家庭を、地域で見守る意識が形成されている！



この分野の主な課題

(詳細はP21、22)

- ・安心して子育てできる環境
- ・幼児教育・保育環境の充実
- ・子育てを応援する地域づくり

未来に向けた施策の方向性



① 切れ目のない妊娠・出産・子育て支援

安心して妊娠・出産、子育てができるよう、妊娠期から子育て期にわたり切れ目なく支援するとともに、すべてのこどもの健やかな成長を支援します。

施策例：こども家庭センター・えがおによる一体的な相談支援、地域子育て支援センター設置 など

② 健やかな発育発達

疾病等を早期に発見し適切な治療や養育につなぎ、健やかな発育発達が促されるよう環境づくりを進めます。

施策例：乳幼児健康診査、こども発達相談会 など

③ 幼児教育・保育環境の充実と質の向上

こどもが安心して過ごし学べる環境の充実と豊かな創造性や感性を育むとともに、多様なニーズに寄り添った幼児教育・保育を推進します。

施策例：特色ある幼児教育・保育の推進、多様な保育サービスの提供 など

④ 困難を抱えるこどもや家庭への支援

ヤングケアラー⁽¹⁾、ひきこもりなど困難に直面するこども・若者や、障がいなどがあるこども・若者、ひとり親家庭などが必要な支援を受けられるよう、相談体制を充実させ、関係機関の連携を強化します。

施策例：ヤングケアラーの早期発見と早期支援、ひきこもり家族教室 など

⑤ 地域全体でこども・若者や子育てを応援(再掲)

地域や社会全体で、こども・若者、子育て家庭を温かく見守り、応援する気運を高めます。

施策例：「福島市子どものえがお条例」アクションプランの実施、地域のこどもの居場所づくり支援(こども食堂) など

関連する個別計画等

- 福島市こども計画 ○ふくしまし健康づくりプラン ○福島市食育推進計画
- 福島市教育振興基本計画 ○福島市生涯学習振興計画 ○福島市障がい者計画
- 男女共同参画ふくしまプラン(福島市男女共同参画基本計画)

(1)ヤングケアラー：本来は大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っているこども・若者のこと。

(3)

個性を磨き、才能を拓く知育・徳育・体育の充実と保育・教育環境の整備



【地元食材を生かした学校給食】

8年後の姿

個性や才能を伸ばす学びが充実し、こどもたちが地域の自然や文化、人との関わりを通じて学び、ふるさとへの愛着と将来への可能性を広げながら主体的に成長しています。

みんなの想い

こどもや若者の“やりたい”にチャレンジできる環境が整っている！

学校教育に、地域の人たちの力を積極的に取り入れている！

個別の教育的ニーズに寄り添った指導・支援体制が充実している！

こどもが楽しいと思える授業により、主体的に学習する環境が整っている！

不登校やいじめ問題にすばやく対応し、不安や悩みを抱えるこどもへの支援が充実している！



この分野の主な課題

(詳細はP21、22)

- ・多様な学びへの対応
- ・地域とともに育む教育
- ・時代に対応した教育環境

未来に向けた施策の方向性



① こども中心の学びによる自ら学ぶ力の育成

「すべてのこどもは有能で、適切な環境があれば必ず自律した学習者になれる」とのこども観・教育観に立ち、こどもが主体的に「学びとる」授業を推進します。

施策例：幼・保・小・中学校連携推進事業、福島型「非認知能力育成」プロジェクト など

② 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実

それぞれの興味・関心や学習特性に応じて、学ぶ内容や学び方などを自ら選択しながら進める学習と、こども同士の関わりや教師や地域の人との対話等を通じ、自己の考えを広げ深める学習の一体的充実を図ります。

施策例：学力向上推進事業、中学生ドリームアップ など

③ ふるさとへの愛着の醸成

地域や家庭、学校等が連携し、地域全体でこどもを育てる気運を高め、こどもたちの地域を知る力の育成を図るとともに、学校給食を通じた地元食文化への理解を深め、ふるさとへの愛着心を育みます。

施策例：地域と学校の共創の推進、食育の推進 など

④ ICT教育や情報活用能力の育成

教員への研修により、クラウドツール⁽¹⁾や生成AI⁽²⁾を活用したICT教育⁽³⁾を推進し、発達段階に応じた指導を通して情報モラルを含む確かな情報活用能力の育成を図ります。

施策例：ICT教育推進事業、ICT研修推進事業 など

⑤ 幼児教育・保育環境の充実と質の向上(再掲)

こどもが安心して過ごし学べる環境の充実と豊かな創造性や感性を育むとともに、多様なニーズに寄り添った幼児教育・保育を推進します。

施策例：特色ある幼児教育・保育の推進、多様な保育サービスの提供 など

関連する個別計画等

○福島市こども計画 ○福島市教育振興基本計画

(1)クラウドツール：インターネット経由でデータやアプリを共有・利用できる仕組みやソフトウェアのこと。
 (2)AI：Artificial Intelligence(アーティフィシャル インテリジェンス：人工知能)の略称。人工的に作られた人間のような知能や技術のこと。
 (3)ICT教育：パソコンやタブレット端末などを教育現場に導入し、情報通信技術(ICT)を活用し、個別最適な学びの充実や協働的な学びの活性化を図る取組のこと。

2 心身ともに健康で、 支え合うまち

分野名・プロジェクト名

健康

(4) 健康で元気に過ごせる環境づくり

医療

(5) 関係機関との連携による地域医療の強化・保健衛生の充実

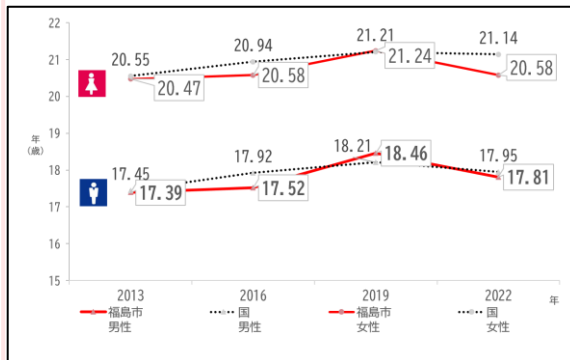
福祉

(6) 支援を必要とする人を確実に支える福祉の実現

主なデータから見る現状

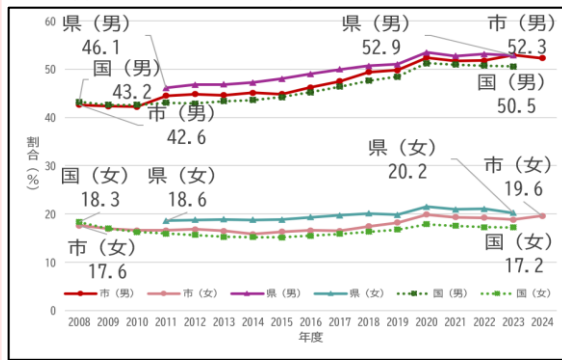
65歳健康寿命

65歳健康寿命は国と比較すると短い傾向にある。

資料:福島県市町村別「お達者度⁽¹⁾」の算定について

メタボ該当・予備群率

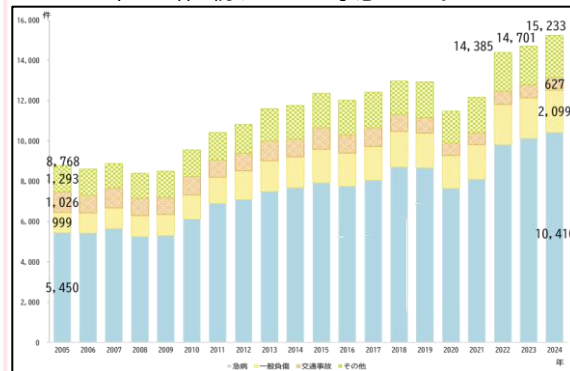
男性はほぼ 2 人に 1 人、女性はおよそ 5 人に 1 人が該当している。男女ともに上昇傾向にあり、特に男性は 16 年間で 9.7 ポイント上昇している。



資料:福島市国民健康保険「特定健康診査・特定保健指導法定報告データ」、福島県国民健康保険団体連合会(2008～2010 公表なし)、厚生労働省

救急出動件数と事故種別

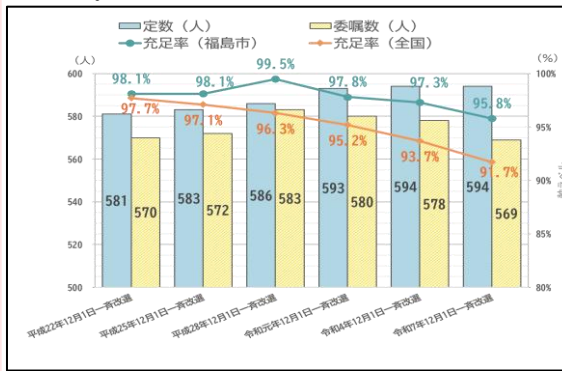
救急出動件数のうち、急病及び一般負傷による出動は増加傾向にあり、高齢化が進むことにより救急件数は 2035 年まで増え続けることが予想される。



資料:消防年報

民生委員・児童委員の充足率の推移

地域福祉の担い手である民生委員・児童委員の充足率は全国と比べ高いものの、平成 28 年以降欠員が増加している。



資料:共生社会推進課、厚生労働省「社会・援護局」民生委員・児童委員制度の最近の傾向」

現状と課題

健康で安心して暮らせるまちづくりと地域共生社会の実現が求められています

●すべての市民が健康で安心して暮らせるまちを実現するためには、地域の保健・医療・福祉の体制を一層充実させていくことが重要です。

●今後、高齢化のさらなる進行が見込まれる中で、本市は65歳健康寿命⁽²⁾が国の平均より短い傾向にあることや、メタボリックシンドロームの該当・予備群率が男女ともに上昇傾向にあるなどの課題を抱えています。

●健康づくりや感染症予防、食品衛生及び生活衛生の確保、救急医療体制の強化など、市民生活を支える基盤としての重要性が高まる中で、一人ひとりの健康寿命の延伸や安全で快適な生活環境の維持が求められるとともに、新たな感染症など健康危機への迅速かつ的確な対応体制の構築が必要です。

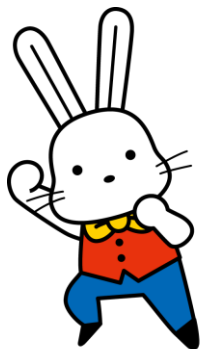
●少子高齢化や価値観の多様化などが進んだことにより、地域におけるつながり、支え合いの意識が希薄化し、地域が抱える課題は複雑化・多様化しています。

●地域福祉の担い手となる人材不足も喫緊の課題となっており、市民や地域、行政などの多様な主体が参画・連携しながら、互いに支え合うことができる仕組みづくりが求められます。



【高齢者スポーツ大会の様子】

(1)お達者度:65歳における健康寿命より、市民の健康状況の改善をはかる指標。厚生労働省科学研究班による「健康寿命の算定プログラム」を用いて人口、死亡数、要介護認定者数(要介護度2未満)を使用して県が独自に3年ごとに算定している値。
(2)健康寿命:健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。



(4) 健康で元気に過ごせる環境づくり



【いきいきももりん体操(介護予防体操)の様子】



【健康づくりイベントの様子】

8年後の姿

健康づくりや介護予防が暮らしに定着し、誰もが生きがいを持って生活しています。

健康寿命の延伸が進み、一人ひとりが地域の中でいきいきと暮らすことのできる環境が整っています。

みんなの想い

一人ひとりの健康意識が向上し、地域での健康イベントが盛り上がっている！

健診の受診率が向上し、病気の早期発見・予防が促進され、健康で安心して暮らしている！

デイサービスなどの福祉サービスが充実し、高齢になっても生きがいを感じながら、和気あいあいと暮らしている！

難病への理解者が増え、支え合い、地域で安心して暮らせる環境が整っている！

スポーツクラブやサークルなどの活動機会に恵まれ、日常的に歩くことが習慣化されている！



この分野の主な課題

(詳細はP29、30)

- ・健康寿命⁽¹⁾の延伸
- ・地域ぐるみの健康づくり・介護予防
- ・一人ひとりが取り組む健康づくり・介護予防

未来に向けた施策の方向性



① 健康づくり(食生活の改善・運動習慣の定着)

すべての市民が継続して食生活の改善や運動習慣の定着に取り組むことができるよう、「一人ひとりの健康を応援する環境づくり」「地域の健康づくり」「職場の健康づくり」に地域総ぐるみで取り組みます。

施策例: 健脚・適しお⁽²⁾の普及啓発、健康講座の実施 など

② 病気の予防・早期発見・早期治療

がん、メタボリックシンドローム、糖尿病、脳・心血管系疾患などを予防するとともに、健(検)診受診を促進し、早期発見と適切な治療につながる体制の充実を図ります。

施策例: 職場の健康づくり応援、市民検診の受診促進 など

③ 介護予防

高齢者が元気に過ごせるよう、多様な活動の場や身近な通いの場への参加を促進するとともに、生活支援・介護予防サービスの提供や多様な主体による地域での支え合い活動を推進します。

施策例: 介護予防の取組の強化・

普及啓発(いきいきももりん体操、介護予防教室等) など

④ ともに健康を支える社会環境づくり

がんや難病などで医療・介護が必要な状態にあっても、自分らしく、安心して住み慣れた地域で暮らせるよう、ともに理解し、支え合う地域をつくります。

施策例: 若年がん患者在宅療養支援、難病講演会・交流会の実施 など

⑤ ヘルスリテラシー

自分のからだや健康に関する様々なリスクに関心を持ち、根拠に基づいた信頼できる情報を選択するとともに情報を理解し判断して行動できるよう、「ヘルスリテラシー⁽³⁾」を向上させる取組を推進します。

施策例: 健康や医療に関する各種教室、適切な情報発信 など

関連する個別計画等

○ふくしまし健康づくりプラン

○福島市高齢者いきいきプラン(福島市高齢者福祉計画・福島市介護保険事業計画)

○福島市食育推進計画 ○福島市国民健康保険保健事業実施計画・特定健康診査等実施計画

(1)健康寿命:健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。
 (2)健脚・適しお:「ふくしまし健康づくりプラン2024」で目指す健康づくりの取組。
 健脚:福島らしさを生かした健康づくりとして、信夫山の羽黒神社に奉納される大わらじの由来である「健脚」をキーワードに、毎日の生活の中で意識的に体を動かし、自分に合った運動習慣の定着を目指す取組。
 適しお:適切な量の塩分でおいしく食べるにより、心臓病や脳卒中、腎臓病などの様々な生活習慣病を予防するための取組。
 (3)ヘルスリテラシー:健康や医療の情報を入手し、理解して活用する力のこと。健康や医療の情報発信する側がわかりやすく正確に伝えることも求められる。

(5)

関係機関との連携による 地域医療の強化・保健衛生の充実

【感染症患者の移送訓練の様子】

8年後の姿

関係機関等との連携により、誰もが必要な時に適切な医療を受けられるとともに、感染症危機が発生しても、まん延を防止できる体制が整っています。
食品衛生や生活衛生が確保され、引き続き安全で安心して暮らせる環境が整っています。

みんなの想い

医療現場で働く人へのサポートが充実し、休日や夜間でも受診可能な医療体制が提供されている！

感染症患者や医療従事者等への誤解や偏見がなくなっている！

食や生活の安全が守られ、安心して楽しく利用できる飲食店や旅館、温泉が充実している！



この分野の主な課題

(詳細はP29、30)

- ・地域医療提供体制の充実
- ・感染症危機への対応
- ・食品衛生及び生活衛生の確保

未来に向けた施策の方向性



① 地域医療体制(医療資源の最適化・救急医療体制)

地域の医療機関や関係者間の連携の強化、医療人材の確保、医療DX⁽¹⁾の推進等により、充実した医療提供体制を確保するとともに、市民に適正受診⁽²⁾の浸透を図る取組を進めます。

施策例：地域医療確保対策、オンライン診療 など

② 感染症危機管理体制

一人ひとりが自ら判断し、適切な感染症予防行動をとれるよう、正しい情報発信と知識の普及啓発に努めます。また、関係機関等との連携・訓練等を通して、感染症危機⁽³⁾の発生時に迅速に対応できる体制を整備します。

施策例：「感染症リテラシー⁽⁴⁾」向上への取組、
関係機関との情報共有や実践的訓練の実施 など

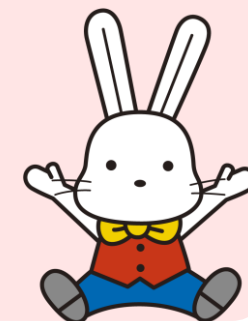
③ 食品衛生・生活衛生

市民や食品及び生活衛生事業者に対し、衛生思想⁽⁵⁾の普及を図るとともに、計画的な指導体制を維持します。

施策例：食品衛生講習会、事業者への監視指導 など



【食品営業施設の調査の様子】



関連する個別計画等

- 福島市感染症予防計画 ○福島市新型インフルエンザ等対策行動計画
- 福島市食品衛生監視指導計画

- (1)医療DX：医療分野においてデジタル技術を活用し、より良質な医療やケアを受けられるように社会や生活の形を変えること。
(2)適正受診：受診のタイミングを適切に判断したうえで、必要な医療を選択する上手な医療のかかり方のこと。
(3)感染症危機：国民の大部分が現在その免疫を獲得していないこと等から、新型インフルエンザ等が全国的かつ急速にまん延し、国民の生命及び健康並びに国民生活及び国民経済に重大な影響が及ぶ事態。
(4)感染症リテラシー：感染症に関する情報を入手し、理解して活用する能力のこと。情報発信する側がわかりやすく正確に伝えることも求められる。
(5)衛生思想：手洗いや消毒等の衛生管理の実践をとおし、清潔な環境を維持することで、感染症や食中毒等を予防し、個人の健康だけでなく地域社会全体の健康を守ること。

(6)

支援を必要とする人を確実に支える福祉の実現

【オレンジカフェの様子】

8年後の姿

地域で支え合いの輪が広がり、高齢者も障がいのある人もない人も市民一人ひとりが安心して安全にいきいきと暮らしています。

みんなの想い

地域で誘い合って、高齢者や障がいのある人などが孤立しないよう、少しでも役立ちたい！

高齢者が生活する上で困ったときや、いざという時に、頼りにできる支援が整っている！

障がいのある人が個性を発揮して楽しく働ける場所、安心して居られる場所が、十分に整備されている！

障がいのある人もない人も、みんなで協力し合える、やさしく思いやりのある世の中にしたい！



この分野の主な課題

(詳細はP29、30)

- ・地域で支え合う福祉
- ・多様な福祉課題への対応
- ・福祉人材の確保・育成

未来に向けた施策の方向性



① 地域福祉

共に支え合いながら、誰もが住み慣れた地域で自分らしく暮らしていける地域社会づくりを推進します。

施策例：民生委員・児童委員との連携、福祉関係団体等との連携 など

② 高齢者福祉(地域包括ケアシステム)・介護保険

介護予防や要介護者の自立支援・重度化防止に向けた取組をはじめ、医療と介護の連携や認知症に関する取組など、地域包括ケアシステムの深化・推進⁽²⁾を図ります。

施策例：地域包括支援センター及び在宅医療・介護連携支援センターの運営、認知症施策の推進 など

③ 障がい福祉

一人ひとりが人格と個性を尊重し支え合うことで、障がいの有無に関わらず、社会参加と自立した生活を送ることができる社会づくりを推進します。

施策例：障がい者の相談支援、障がい者の自立・社会参加の支援 など

④ 相談支援

経済的な困窮、社会的な孤立・孤独など複合的な課題を抱えた人々が取り残されることがないように、一人ひとりの状況に合わせ、包括的かつ継続的に支援します。

施策例：包括的支援体制の整備、生活相談支援 など

⑤ 福祉を支える人材

福祉職・介護職の確保・育成を図るとともに、その活動の魅力を積極的に発信し、地域福祉の担い手の掘り起こしに取り組みます。

施策例：福祉人材の確保・定着(離職防止)、元気高齢者の介護分野への参入支援 など

関連する個別計画等

- 福島市地域福祉計画
- 福島市重層的支援体制整備事業実施計画
- 福島市再犯防止推進計画
- 福島市高齢者いきいきプラン(福島市高齢者福祉計画・福島市介護保険事業計画)
- 福島市障がい者計画
- 福島市自殺対策計画

(1)オレンジカフェ：認知症の人やその家族、地域住民、介護や福祉の専門職など誰でも気軽に集える場所。レクリエーションや参加者同士での情報交換など様々な活動をおし、地域とのつながりの場になっている。
(2)地域包括ケアシステムの深化・推進：高齢者が要介護状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい及び自立した日常生活の支援」を一体的に提供する取組の質を高め、地域の実情に応じて進めていくこと。

3 居場所と生きがいを 持てるまち

分野名・プロジェクト名

多様性・共生社会

(7) 多様性を認め合う共生社会の推進

コミュニティ・生涯学習

(8) つながりの形成と学びの環境の充実

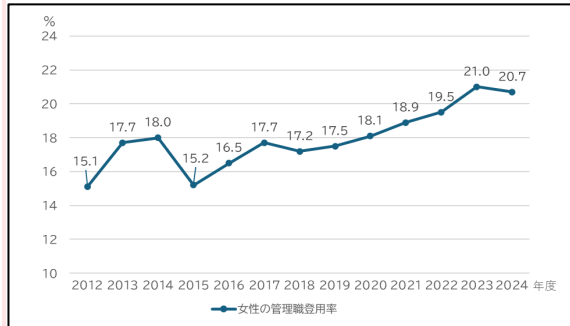
文化・スポーツ

(9) 身近に親しみ、地域の活力となる文化・スポーツの推進

主なデータから見る現状

女性の管理職登用率 (従業員 20 人以上の事業所)

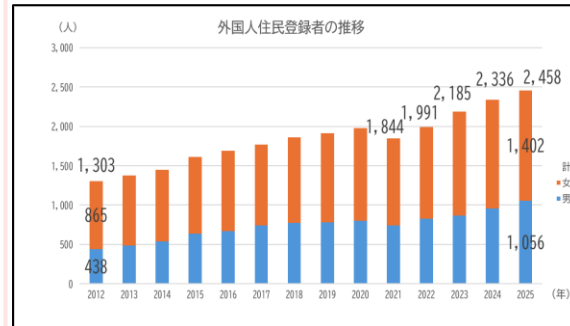
女性活躍の推進や働きやすい職場づくりの促進により着実に上昇している。



資料：福島市「労働条件実態調査」

外国人住民登録者数

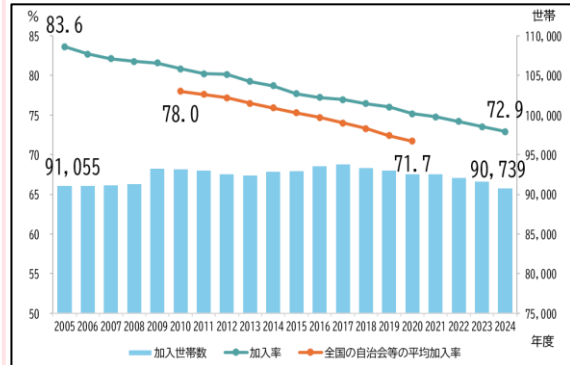
新型コロナの影響により減少に転じた時期もあるが、増加傾向となっている。また、男性の比率が高まっている。



資料：住民基本台帳人口

町内会の加入世帯数と加入率

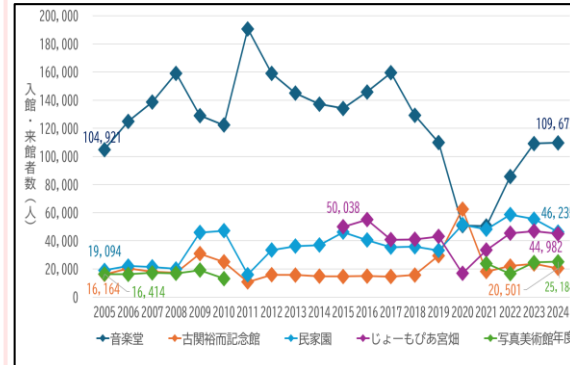
加入率は減少傾向。加入世帯数は飯野町の合併(2008年)や東日本大震災の影響等により変動はあるものの、2017年をピークに減少している。



資料：地域共創課、総務省「地域コミュニティに関する研究会報告書」
※全国平均加入率

主要文化施設の年間入館・来園者数

東日本大震災、コロナ禍の影響があったほか、施設ごとの要因により入館・来園者数が増減している。



資料：文化振興課

現状と課題

多様性を認め合う社会の形成と居場所づくりが求められています

●人口減少が進む中で、人材の確保や地域の活力を維持するためには、一人ひとりが輝く活躍の場を創出することが求められます。

●女性の管理職登用や男性の育児参加など男女共同参画の取組が着実に進んでいますが、さらなる環境整備が不可欠です。これに加えて、年齢や性別、障がいの有無、国籍、文化などを互いに認め合い、誰もが安心して暮らせるよう、あらゆる分野において、アンコンシャス・バイアス⁽¹⁾を解消し、多様性へのさらなる理解を促進する取組が必要です。

●核家族化やライフスタイルの多様化などを背景に、地域住民同士の関わりは希薄になり、地域コミュニティの弱体化が進んでいます。

●このような中、孤独や孤立を防ぎ、誰もがいきいきと心豊かな生活を送るためには、地域住民が安心して過ごせる居場所づくりや、多様なニーズに応じた生涯学習の充実が不可欠です。これにより、様々な世代や立場の人々の交流が深まり、地域での支え合いの基盤構築にもつながります。

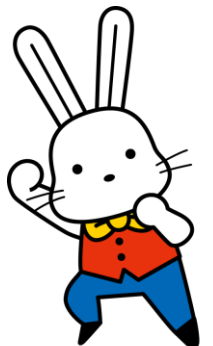
●担い手の高齢化などにより、福島らしい文化の継承が難しくなっています。文化施設の利用者数は、外的要因による増減を除けば横ばいであり、従来の運営では新規層の獲得が難しくなっています。また、公共スポーツ施設利用者数は、コロナ禍以降回復傾向にありますが、ピーク時の利用者数までは至っていません。今後、文化や歴史に身近に親しむ機会の創出やスポーツを気軽に楽しめる環境整備を進め、まち全体の活気につなげていくことが求められます。



【市民団体主催のロゲイニング大会】
※地図をもとに時間内でチェックポイントを巡り、得点を競うチームスポーツ



【「しゃがむ土偶ぴ〜ぐ〜」】



(1)アンコンシャス・バイアス：無意識の思い込みや偏見

(7) 多様性を認め合う共生社会の推進

【様々な違いがある人たちが輝く共生社会を色とりどりの傘を並べ表現(結アンブレラスカイ):こむこむ館】

8年後の姿

一人ひとりが人間尊重の視点を大切にし、年齢や性別、障がいの有無、国籍などに関わらず、多様な価値観が尊重され、男女共同参画社会が実現しています。
誰もが自分らしく暮らし、活躍できる社会が広がっています。
ペットの命が大切にされ、人と共生しています。

みんなの想い

ひとりの人間として互いに思いやりをもって生活できる社会になっている！

性別による役割の思い込みにとらわれることなく、誰もが多様な分野で自分らしく活躍できる社会になっている！

障がいがある人も、そうでない人も、一緒に活動できる場所がつくられるまちになっている！

市内に住む外国人との交流や海外の文化に触れることができる大きなイベントが開催され、まちなかで楽しく交流できる！

動物の命が大切にされ、人と動物が共生できるまちになっている！



この分野の主な課題

(詳細はP37、38)

- ・多様性への理解と共生社会の推進
- ・一人ひとりの個性と能力が発揮できる参画社会の形成
- ・誰もが安心して暮らせる環境づくり

未来に向けた施策の方向性



① 人間尊重、人権意識、多文化共生

年齢、性別、障がいの有無、国籍、言語、文化、習慣、価値観などの多様性を一人ひとりが互いに認め合い、理解し合いながら、活力ある地域社会づくりを進めます。

施策例:多様性理解のための意識啓発、多文化共生のまち福島の推進 など

② 男女共同参画、固定的な性別役割分担意識等の改革

男女共同参画の理解が深まり、固定的な性別役割分担意識⁽¹⁾が解消され、それぞれの個性と能力が発揮できるよう意識の啓発を推進します。

施策例:男女共同参画の意識づくり、誰もが参画できる環境づくり など

③ 心のバリアフリー、誰もが暮らしやすいまち

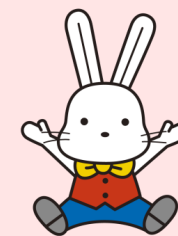
多様な人々が地域で安心して生活できるように、心のバリアフリー⁽²⁾を含むソフト面のバリアフリーを社会全体で推進し、社会的な障壁を取り除く考え方や行動を広めます。

施策例:心のバリアフリー推進隊による普及啓発、出前講座・講演会・動画放映 など

④ 動物愛護と共生

人と動物との調和のとれた共生社会の実現を目指し、飼い主への適正飼育の普及啓発などに取り組み、一人ひとりの動物愛護意識の向上を図ります。

施策例:動物愛護普及啓発事業、犬及び猫の譲渡事業 など



関連する個別計画等

- 福島市男女共同参画基本計画(男女共同参画ふくしまプラン)
- 多文化共生のまち福島推進指針
- 福島市地域福祉計画
- 福島市バリアフリーマスタープラン

(1)固定的な性別役割分担意識:「男性は仕事、女性は家庭」等のように、性別に基づく役割分担の考え方。
(2)心のバリアフリー:年齢や性別、障がいのある・なし、国籍などの違いに関わらず、お互いに関心を持ち、理解し合い、自然に支え合える行動のこと。

(8) つながりの形成と学びの環境の充実



【まちを彩るため花植えを行う地域住民】

8年後の姿

生涯にわたる学びや活動を通じて一人ひとりが地域・団体とつながり、自分自身の居場所があると思えることで、生きがいを感じています。

みんなの想い

個人でできること、町内会や地域で取り組むこと、行政にお願いすることを、地域住民間で話し合って生活ができている！

学校や職場、家庭以外にも、地域活動やボランティア活動など一人ひとりが活躍できる場がある！

生涯学習の講座や、施設・設備が充実していて、地域の人たちが交流できる場所や機会が整っている！



この分野の主な課題

(詳細はP37、38)

- ・地域コミュニティの活性化
- ・居場所と交流の充実
- ・生涯学習の充実

未来に向けた施策の方向性



① 地域コミュニティ

地域全体を活性化させるため、様々な立場の人々が連携し、多くの住民が積極的に町内会などの地域活動に参加できる地域コミュニティづくりに取り組みます。

施策例：電子町内会の推進、町内会加入の促進 など

② NPO・ボランティア団体

多様な想いをを持った人々が「チャレンジ」できる環境を整え、その想いを実現・実践できる社会づくりに取り組みます。

施策例：若者の市民活動への参加促進、市民活動への支援 など

③ 生涯学習の振興

すべての人が、学びを通じて自分らしく成長できるよう、多様なニーズに応じた学習の機会を提供するとともに、学びやすく利用しやすい環境の充実を図ります。

施策例：多様な学習機会の提供、生涯学習関連施設の改修 など

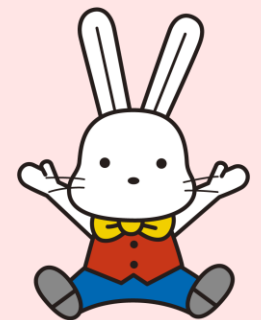
④ 地域活動支援

共創の理念に基づき地域・団体・行政が連携・協力し、多様な活動を支援します。

施策例：ふくしま共創のまちづくり計画の推進、地域のまちづくりの取組への支援 など



【学習センターでの青年学級】



関連する個別計画等

- 福島市共創のまちづくり推進指針
- ふくしま共創のまちづくり計画
- 福島市教育振興基本計画
- 福島市生涯学習振興計画

(9)

身近に親しみ、地域の活力となる 文化・スポーツの推進



【古関裕而記念音楽祭の様子】



【ふくしまシティハーフマラソンの様子】

8年後の姿

文化やスポーツに親しむ機会が身近にあり、多様な交流や活動が広がっています。

歴史や文化が受け継がれ、ふるさとへの愛着と誇りを育み、スポーツを通じた交流や応援がまちに活力を生み出しています。

みんなの想い

音楽や美術を鑑賞したり、歴史文化を学んだりする機会が充実していて、誰もが自分の好きな文化活動を楽しんでいる！

みんなが福島らしい文化に親しんでいて、ふるさとへの愛着を持っている！

プロスポーツ選手と触れ合う機会があり、子どもから高齢者まで全世代がスポーツを楽しんでいる！



この分野の主な課題

(詳細はP37、38)

- ・文化の継承と魅力の発信
- ・文化・スポーツに親しむ環境づくり
- ・文化・スポーツを通じた交流とにぎわい創出

未来に向けた施策の方向性



① 文化活動への支援

様々な芸術や歴史に触れ、学び、楽しむことができる機会を充実させるとともに、市民文化活動への支援や市有文化施設の計画的な改修等、市民が文化活動を行う環境整備を進めます。

施策例：音楽コンサートの開催、文化施設の管理運営 など

② 福島らしい文化の次世代への継承

古関裕而⁽¹⁾氏や「しゃがむ土偶び〜ぐ〜⁽²⁾」などの福島らしい文化に触れ、学ぶ機会を提供するとともに、文化財を保護・保存・活用し、発信することで、ふるさとへの愛着心を育み、福島らしい文化を次世代へ継承します。

施策例：古関裕而を活かしたまちづくり事業、文化財の保存・活用 など

③ スポーツ参画人口の拡大

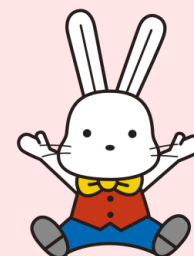
様々な団体や民間と連携し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」多様な機会を創出するとともに、市民スポーツ活動を支援し、スポーツ参画人口の拡大を図ります。また、スポーツを通じて共生社会への理解を進めます。

施策例：ふくしまシティハーフマラソン、パラスポーツの振興 など

④ スポーツに親しむ環境の構築

利用者ニーズを踏まえたスポーツ施設の適切な運営に努めるとともに、施設情報の積極的な発信により、スポーツに親しみやすい環境を整えます。

施策例：スポーツ施設の管理運営、情報発信 など



関連する個別計画等

○福島市文化振興計画 ○福島市文化財保存活用地域計画 ○スポーツ施設個別計画

(1)古関裕而：福島市出身で日本を代表する作曲家。生涯作曲数は約5,000曲に及び、創作ジャンルは、歌謡曲・スポーツ・ラジオドラマ・校歌・社歌など多岐にわたり、1979年(昭和54年)に福島市名誉市民第一号として、その功績と栄誉を称えられている。また、古関氏をモデルとした連続テレビ小説「エール」が、2020年(令和2年)3月から11月まで放映された。
(2)しゃがむ土偶び〜ぐ〜：東湯野地区の上岡遺跡で見つかった土偶。座って腕を組んだポーズをしており、国重要文化財に指定されている。桃畑から見つかったため、「び〜ぐ〜」の愛称で親しまれている。

4 快適に移動・生活できるまち

分野名・プロジェクト名

まちのリノベーション・回遊性

(10) まちの磨き上げによる魅力創出と回遊性の向上

移動の自由・公共交通

(11) 利便性の高い公共交通網の再整理

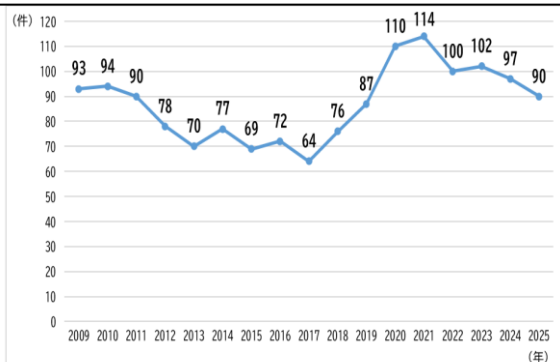
都市インフラ

(12) 都市インフラの最適化

主なデータから見る現状

中心市街地空き店舗数

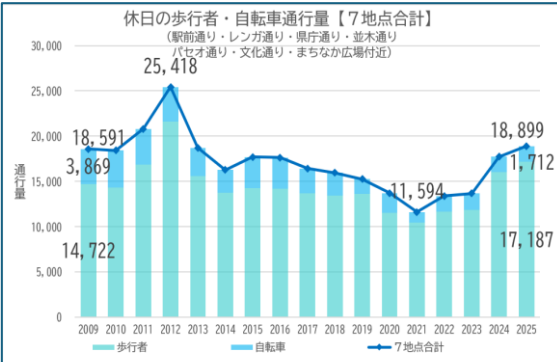
コロナ禍以降は新規出店等により緩やかな減少傾向で推移している。



資料：福島市「中心市街地空き店舗等調査報告書」

休日の歩行者・自転車通行量

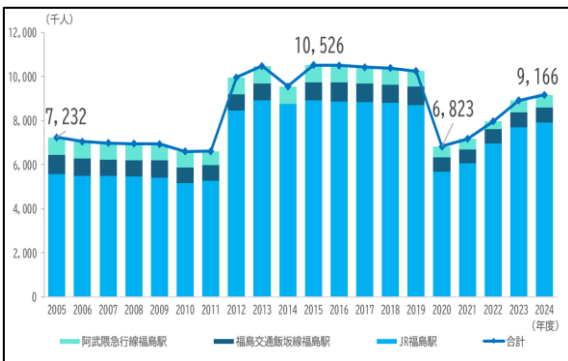
2022年以降人流が徐々に回復して増加傾向に転じている。



資料：都市計画課

福島駅利用者数

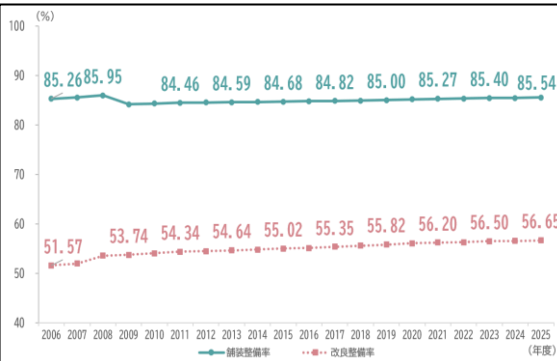
コロナ禍により利用者数が大幅に減少し、その後徐々に回復傾向にあるが、コロナ禍前の状況までは回復できていない。



資料：東日本旅客鉄道㈱、福島交通㈱、阿武隈急行㈱

市道の舗装率と改良率

道路改良事業の完成や開発道路の移管により舗装率及び改良率は微増となっている。



資料：路政課

現状と課題

都市機能の再構築と移動の自由の確保、生活基盤の確保が求められています

●福島駅東口・西口の双方における大型商業施設の撤退などにより、まちなかのにぎわいの低下を招いている状況です。

●民間主体による新たな動きも着実に生まれており、新規出店も見られるなど、まちなか再生に向けた兆しも一部出始めています。こうした動きを確実に波及させていくため、東口再開発⁽¹⁾とともに西口も含めて、東西一体のまちづくりを進め、民間投資を呼び込む好循環を生み出しながら都市機能の再構築を図る必要があります。

●公共交通機関の利用者数は、コロナ禍以降、回復傾向にあるものの、人口減少や担い手不足、乗務員の高齢化などにより、将来的なサービスの維持が懸念されるとともに、高齢者の移動手段の確保や公共交通を補完する「小さな交通⁽²⁾」が求められています。

●今後は、交通事業者、行政、地域住民、ボランティア団体等の多様な主体の連携やデジタル技術の活用などにより、交通ネットワークの一層の充実を図る必要があります。同時に、まちなかへ商業・医療・教育などの高次都市機能、日常生活の拠点となるエリアには特性に応じた機能をそれぞれ集積し、道路や河川、公園、上下水道などインフラ⁽³⁾の最適化を進め、誰もが暮らしやすいコンパクト+ネットワーク⁽⁴⁾のまちづくりを推進する必要があります。

●将来的に人口減少が進む中で、道路や河川、公園、上下水道などインフラの維持管理に係る市民一人当たりのコスト負担の増加が見込まれます。このため、持続可能なインフラ経営に向けて、整備・更新を行う箇所の「選択と集中」が必要になります。



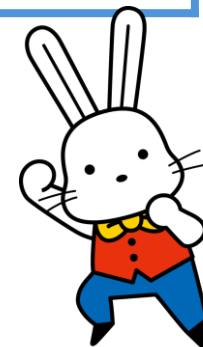
【東口再開発 フレキシブルホールイメージ】

(1)東口再開発：福島駅東口地区第一種市街地再開発事業は民間施行による再開発事業。再開発施設の中に市の駅前交流・集客拠点施設の機能を組み込んで整備する。

(2)小さな交通：公共交通が行き届かない又は利用しづらい地域において、買い物や通院などの日常生活に必要な移動手段(主に支所管内)として運行する、既存の公共交通(バス・鉄道・タクシー)を補完する地域内交通。

(3)インフラ：“infrastructure”(infra-「下に、下部に」、structure「構造、機構」)道路、鉄道、上下水道、電気、ガス、通信網のほか、学校、病院、公営住宅、公園などの市民生活や企業活動の基盤となる施設。

(4)コンパクト+ネットワーク：中心市街地を都市機能が集積する「中心拠点」、周辺部を地域特性に応じた「地域拠点」とし、これらを公共交通などのネットワークで結ぶことで、利便性と持続可能性を高める都市構造の考え方。



(10)

まちの磨き上げによる魅力創出と回遊性の向上



【東口再開発複合棟 外観イメージ】



【人が行き交い、にぎわいのあるまちなかの様子】

8年後の姿

まちなかには人が集い、歩いて楽しめる空間や交流の場が広がっています。
人の流れと回遊が生まれることでにぎわいが創出され、そのにぎわいが市内全域に波及し、まち全体の魅力が高まっています。

みんなの想い

駅前に行けば何かがある、ワクワク感にあふれている。歩いて楽しいまちなかになっている！

季節のイベントや魅力的なお祭りがあり、みんなが一緒になってまちが盛り上がっている！

新しいお店や思わず行ってみたくなる個性なお店がたくさんあって、楽しく買い物や食事ができる！

この分野の主な課題

(詳細はP45、46)

- ・まちなかににぎわい創出
- ・民間活力を生かしたまちづくり
- ・まちの魅力と回遊性の向上



未来に向けた施策の方向性



① 駅東西一体のまちづくりの推進

東口再開発⁽¹⁾や西口商業施設跡地を核として、市内外から多くの人々と民間投資を呼び込み、あわせて駅東西の連携強化を図ることで、にぎわいの好循環を生み出し、県都の顔として福島駅周辺の価値を高めます。

施策例：福島駅東口地区市街地再開発事業、福島駅前交流・集客拠点施設整備 など

② ウォーカブルなまちづくりの推進

誰でもまちづくりに挑戦できる機運を醸成し、官民連携で「居心地がよく歩きたくなる」空間を創出します。福島駅周辺で生まれたにぎわいをまちなか全体に広げ、魅力と回遊性が向上するまちづくりを推進します。

施策例：ウォーカブル推進事業、シェアサイクル事業 など

③ まちなかへの出店支援とイベント等の連携による回遊促進とにぎわいの創出

空き店舗等への新規出店支援により、多様な商業機能の集積と魅力ある商業環境の形成を図ります。また、民間事業者等と連携し、市主催イベントの開催や民間イベントへの支援など、まち全体でにぎわいづくりを進め、回遊促進と消費拡大を図ります。

施策例：街なか出店入居者家賃補助、商店街等活性化イベント支援 など

④ 空き家・空き地の適正管理と利活用

空き家・空き地をまちの資産と捉え、流通及び利活用を促進し、空き家や空き地が放置されないまちづくりを推進します。

施策例：空き家無料相談会、空き家除却支援補助、空き家・空き地バンク など

関連する個別計画等

- 福島市都市マスタープラン ○福島市立地適正化計画 ○福島市中心市街地活性化基本計画
- (仮称)福島市空き家・空き地対策計画 ○福島市景観形成基本計画 ○福島市景観まちづくり計画
- 福島市産業未来ビジョン ○福島市商業まちづくり基本構想

(1)東口再開発：福島駅東口地区第一種市街地再開発事業は民間施行による再開発事業。再開発施設の中に市の駅前交流・集客拠点施設の機能を組み込んで整備する。

(11) 利便性の高い公共交通網の再整理



【市民生活を支える路線バス・鉄道】



8年後の姿

公共交通と多様な移動サービスとの連携が図られ、誰もが移動しやすい環境が整っています。
日常生活における移動の自由が確保され、暮らしの選択肢や交流の機会が広がっています。

みんなの想い

病院や買い物など、暮らしに必要な場所へ移動しやすく、暮らしやすい！

運転免許証を持っていなくても、移動に不便を感じず、楽しく生活ができている！

乗り継ぎに不便がなく、目的地まで快適に移動できる！



この分野の主な課題

(詳細はP45、46)

- ・持続可能な公共交通ネットワーク
- ・多様な移動手段の確保
- ・デジタル技術を活用した交通サービス

未来に向けた施策の方向性



① コンパクト+ネットワーク

コンパクト+ネットワーク⁽¹⁾のまちづくりを推進するため、公共交通ネットワークを広域交通⁽²⁾、幹線軸⁽³⁾、支線交通⁽⁴⁾に区分し、それぞれの役割を整理・強化します。

施策例：公共交通ネットワーク再構築、交通結節機能の強化 など

② 公共交通・小さな交通との連携

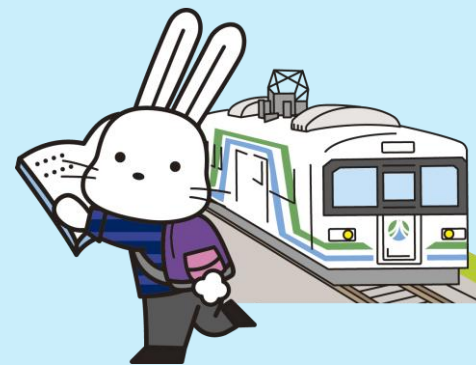
公共交通と地域の実情に応じた小さな交通⁽⁵⁾などの多様な移動サービスとの連携を強化し、誰もが利用しやすく、持続可能で利便性の高い交通ネットワークの形成を進めます。

施策例：公共交通の利用促進、小さな交通の導入・運行支援 など

③ MaaS・AIオンデマンド交通の推進

多様な移動ニーズに対応した持続可能な交通サービスを実現するため、MaaS⁽⁶⁾・AIオンデマンド交通⁽⁷⁾の活用を推進し、公共交通の利便性向上と効率的な運行を図ります。

施策例：公共交通のDX⁽⁸⁾推進、交通データの活用推進 など



【多様な移動サービスの連携】

関連する個別計画等

○福島市地域公共交通計画 ○福島市都市マスタープラン ○福島市立地適正化計画

- (1)コンパクト+ネットワーク：中心市街地を都市機能が集積する「中心拠点」、周辺部を地域特性に応じた「地域拠点」とし、これらを公共交通などのネットワークで結ぶことで、利便性と持続可能性を高める都市構造の考え方。
(2)広域交通：市域を越える移動や市内の地域間移動を担い、周辺市町と市内各地域、中心部を結ぶ交通路線。
(3)幹線軸：都市計画と連携し、まちづくりを支える都市構造の骨格となる交通路線。
(4)支線交通：地域内の移動を担い、居住地と幹線軸や地域拠点を結ぶ交通路線。
(5)小さな交通：公共交通が行き届かない又は利用しづらい地域において、買い物や通院などの日常生活に必要な移動手段(主に支所管内)として運行する、既存の公共交通(バス・鉄道・タクシー)を補完する地域内交通。
(6)MaaS(Mobility as a Service)：複数の交通手段をデジタル技術で連携し、検索・予約・決済を一体的に行うことで、利用者に最適な移動サービスを提供する仕組み。
(7)AIオンデマンド交通：決まった時刻・ルートで運行するバスとは異なり、利用者の予約に応じてAIを活用して効率的に配車・運行を行う乗合型の公共交通サービス。
(8)DX：デジタル技術で人々の生活をより良いものに変革すること。DigitalTransformation(デジタルトランスフォーメーション)の略称。

(12) 都市インフラの最適化

【道路のインフラ整備】

8年後の姿

道路や河川、公園、上下水道などの都市インフラは、将来を見据えて効果的な整備や効率的な維持管理が進んでいます。
必要な都市機能が維持され、市民の安全で快適な生活環境を支えています。

みんなの想い

街灯や歩道が整備され、こどもや高齢者が安心して出歩くことができる！

上水道施設が適正に更新・管理され、おいしい水が安定して使用できる！

地域の人たちが気軽に休憩や会話ができる公園などが充実している！

道路や公園がきれいに保たれ、快適に安心して利用することができる！

この分野の主な課題

(詳細はP45、46)

- ・持続可能なインフラの維持・更新
- ・維持管理コストの平準化
- ・気候変動に対応した安全・安心な生活基盤の確保

未来に向けた施策の方向性

① 道路・河川・公園の整備や維持管理

道路・河川・公園などのインフラ⁽¹⁾を整備し、最適に維持・管理を行うことで、施設の長寿命化を図り、安全で快適な生活環境づくりを進めます。

施策例：幹線道路の整備、公園施設の安全・安心対策 など

② 上下水道の整備や維持管理

上下水道施設の老朽化・料金減収・人材不足等の課題に対応した持続可能な事業運営により、安定したサービスを提供することで日々の暮らしを支えます。

施策例：管路の更新と長寿命化、ICT・DX⁽²⁾推進 など

③ 災害への対応

気候変動による災害の激甚化・頻発化に備え、市民の安全を守る生活環境の確保に努めます。

施策例：河川の土砂浚渫^{しゅんせつ}、除雪対応 など



【更新された遊具で遊ぶこどもたち】



【冬の道路の安全を守る除雪作業】

関連する個別計画等

- 福島市橋梁長寿命化修繕計画
- 福島市国土強靱化地域計画
- 福島市総合治水計画
- ふくしま水道事業ビジョン
- 福島市下水道ビジョン
- 福島市汚水処理施設整備等長期計画
- 福島市花と緑の基本計画
- 福島市公園施設長寿命化計画
- 福島市都市マスタープラン
- 福島市立地適正化計画
- 福島市住宅マスタープラン

(1)インフラ: "infrastructure" (infra-「下に、下部に」、structure「構造、機構」)
道路、鉄道、上下水道、電気、ガス、通信網のほか、学校、病院、公営住宅、公園などの市民生活や企業活動の基盤となる施設。
(2)DX: デジタル技術で人々の生活をより良いものに革新すること。Digital Transformation (デジタルトランスフォーメーション) の略称。

5 多様な産業が成長し、 経済が豊かなまち

分野名・プロジェクト名

産業・イノベーション・雇用

(13) 産業の好循環と若者の定着

農業

(14) 持続可能な地域農林業の確立とくだもの王国ふくしまの強化

主なデータから見る現状

有効求人数・有効求職者数・有効求人倍率

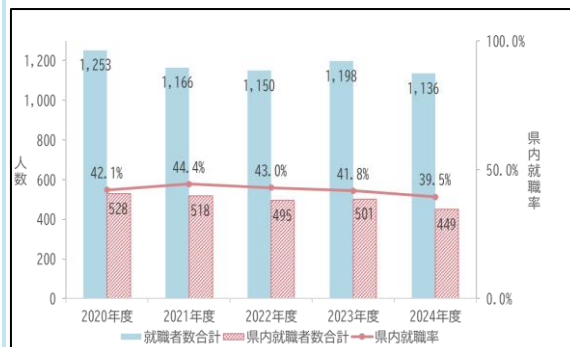
求職者1人あたりの求人情件数を示す有効求人倍率は高く、人手不足の状態が続いている。



資料:福島労働局「労働市場年報統計データ」

市内大学における新卒者の地元就職率(県内就職率)

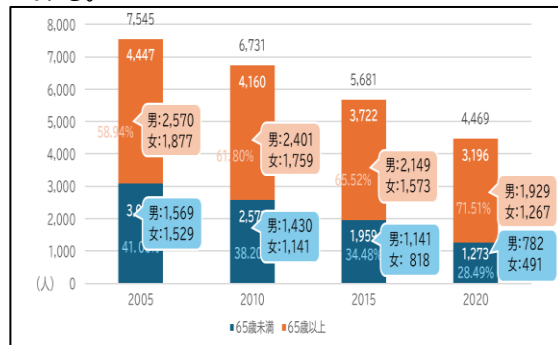
市内大学を卒業し県内へ就職する新卒者の比率は低下傾向にあり、2024年には4割を下回っている。



資料:政策調整課

基幹的農業従事者数の推移

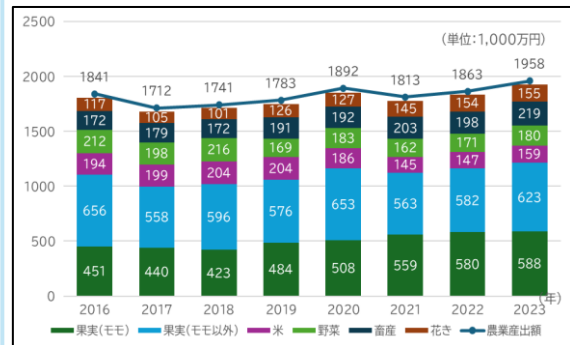
65歳以上が占める割合は年々増加し、高齢化が進行している。



資料:農林水産省「農業センサス」

農業産出額(果実、米、野菜、畜産、花き)の推移

農業産出額は増加傾向で推移している。



資料:農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」

現状と課題

イノベーションの創出による多様な産業の成長と若者の定着が求められています

●人口減少が進み、消費市場の縮小や労働力不足などによる地域経済への影響が懸念されます。

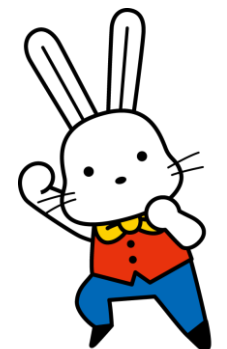
●産業全体においては、社会経済情勢の変化に対応し、機会を捉えて航空宇宙産業などの成長分野に挑戦するなど、イノベーション⁽¹⁾を創出することが重要です。これにより、既存産業の高付加価値化や新産業の創出など、産業の好循環が生まれます。

●基幹産業である農林業分野においては、農業産出額は増加傾向で推移していますが、高齢化に伴い、担い手の確保がますます困難となることに加えて、深刻化する気候変動に適応した経営が求められるなど多くの課題があります。

●若年層の就職による転出は本市の課題の一つです。若者が魅力を感じる新産業の創出や企業の育成・誘致、働きやすい職場環境づくりの支援などをおして、若者にも選ばれるまちになることが求められます。



【ミスピーチキャンペーンクルーによるPR】



(1)イノベーション:新産業を創出するために、革新的な技術や発想を取り入れ、新たな価値を生み出すこと。

(13) 産業の好循環と若者の定着



【産業交流フェアの様子】



【市内企業による新たな技術の導入】

8年後の姿

既存産業の高付加価値化や新産業の創出など、産業の好循環を生み出すことで、持続可能な地域経済を実現させ、企業や若者から選ばれるまちになっています。

みんなの想い

地元企業の魅力を学生や若者が理解し、地元で働くイメージを強く持っている！

新たな企業の進出や地元企業の成長により、若者や子育て世代が安心して地元で働き、暮らしている！

様々な働き方ができるようになって、地元で活躍したい若者の選択肢が広がり、福島に残る人が増えている！

この分野の主な課題

(詳細はP53、54)

- ・若者に選ばれる産業の創出と成長
- ・イノベーション⁽¹⁾による産業の好循環
- ・企業が挑戦・成長できる環境づくり



未来に向けた施策の方向性

① 企業の挑戦や成長支援

大学等の立地や交通結節点などの優位性を生かした企業・オフィス誘致を進めます。また、本市をチャレンジフィールドとした企業の実証実験を支援するとともに、起業促進やスタートアップ企業支援、多様な働き方の推進も行い、企業の挑戦・成長を後押しします。

施策例：企業立地の促進、ふくしまチャレンジ・フィールド、新規創業者への支援 など

② 企業の新たな価値創造による産業の好循環

新たな技術やアイデアの導入など、企業の新たな価値を創造する取組を支援することで産業の好循環を促し、若者にも選ばれる魅力的なまちをつくります。

施策例：産業交流フェアの開催、新製品・新技術開発支援 など

③ 県都の玄関口としての活力向上

県都の玄関口として、まちなかへのオフィス誘致やクリエイティブ産業などの進出を促進し、活力向上を図ります。さらに、福島イノベーション・コースト構想⁽²⁾を進める浜通りへのアクセスと、高速交通の結節点の強みを生かした施策も推進します。

施策例：新規オフィス開設支援、福島イノベーション・コースト構想との連携 など

④ 雇用・事業継続と環境整備

若者や女性が働きやすい職場環境の整備を支援し、企業の人手不足解消と経営の安定化を図ることで、雇用の維持と事業の継続につなげます。また、多様な人材の活躍を推進し、産業の活性化と地域経済の成長を後押しします。

施策例：ダイバーワークスタイル推進、世代別・業種別就職説明会の開催 など

関連する個別計画等

○福島市産業未来ビジョン ○福島市中小企業振興プログラム ○福島市創業支援等事業計画

(1)イノベーション：新産業を創出するために、革新的な技術や発想を取り入れ、新たな価値を生み出すこと。
(2)福島イノベーション・コースト構想：東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復し、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト。



(14)

持続可能な地域農林業の確立と くだもの王国ふくしまの強化

【モモを収穫中の新規就農者】

8年後の姿

担い手が育ち、技術革新や気候変動への対応が進み、地域農林業が持続的に発展しています。

くだもの王国ふくしまのブランド力はさらに高まり、地域産品の価値向上や新たな魅力の創出が広がっています。

みんなの想い

世界に誇るくだもの栽培技術があり、「くだもの王国ふくしま」が発信されている！

新技術や効率的なやり方が取り入れられ、若い人にとって魅力的な職業となっている！

豊かな自然と安心な暮らしを守る森林がきちんと管理されている！

気候変動に対応した技術が普及し、未来に向けて安定して続けられる環境が整っている！

この分野の主な課題

(詳細はP53、54)

- ・持続可能な農林業
- ・農林業の収益力向上
- ・地域資源を生かしたブランド力向上

未来に向けた施策の方向性

① 担い手の確保

本市の基幹産業である農林業を支えるため、新規就農者や多様な担い手を確保するとともに、担い手の育成を図ります。

施策例：新規就農者の営農開始支援、認定農業者の経営改善支援 など

② 稼げる農林業の実現

農業者の生産性や収益性の最大化、気候変動や災害等のリスクに対応した経営の安定化を推進します。また、林業・木材産業の再興のため市産・県産材の利用拡大等に取り組みます。

施策例：農地集積支援、気候変動適応型の農業支援 など

③ 農村の振興

農業の持つ多面的機能を発揮させるため、農村環境を保全するとともに、農村の地域資源の活用に取り組みます。

施策例：農村環境の維持・保全活動支援、農業ふれあい体験事業 など

④ 農産物の魅力最大化

果物をはじめとした本市の農産物の魅力をさらに高め、その魅力を全国に発信します。また、市産農産物を活用した観光プロモーションを展開します。

施策例：農産物のブランド化の推進、重点消費地へのトップセールス など

⑤ 持続可能な森づくり

森林病虫害や乱開発から森林を守り、適切に管理される森林を増やします。

施策例：森林経営管理の推進、森林再生の推進 など

⑥ 多様な連携とDX⁽¹⁾の推進

行政機関・農業関係機関・教育機関や多様な業種との連携を推進し、農林業の新たな価値を創造します。また、デジタル技術を活用した農業者の負担軽減や生産性向上を推進します。

施策例：研究機関等との連携、スマート農業の推進 など

関連する個別計画等

- 福島市農業・農村振興計画
- 福島市森林ビジョン
- 福島市観光共創戦略
- 福島市産業未来ビジョン
- 福島市中小企業振興プログラム

(1)DX:デジタル技術で人々の生活をより良いものに変革すること。DigitalTransformation(デジタルトランスフォーメーション)の略称。



6 人を惹きつけ、 つながりが広がるまち

分野名・プロジェクト名

観光

(15) 点を線にする地域資源の発掘とブランド化の推進

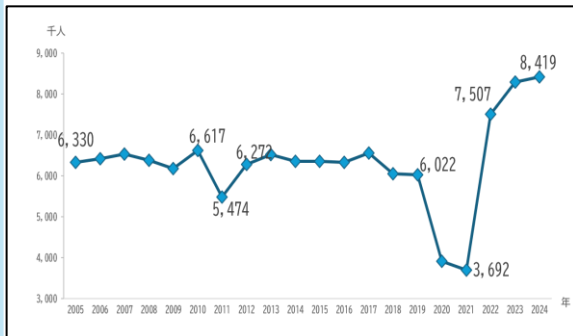
関係人口・移住定住

(16) 関係人口の創出と移住定住支援

主なデータから見る現状

観光客入込数(総数)

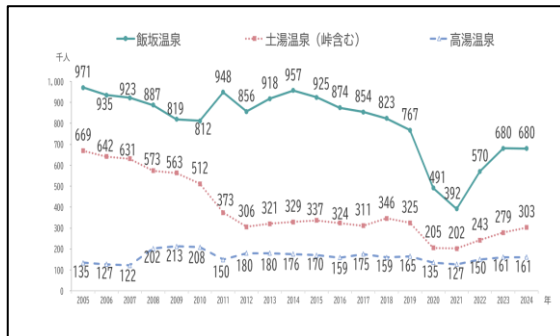
コロナ禍からの回復や道の駅ふくしまのオープンなどにより、2022年以降は、3年連続で過去最高を更新している。



資料:観光交流推進室

ふくしま三名湯・主な観光施設入込数

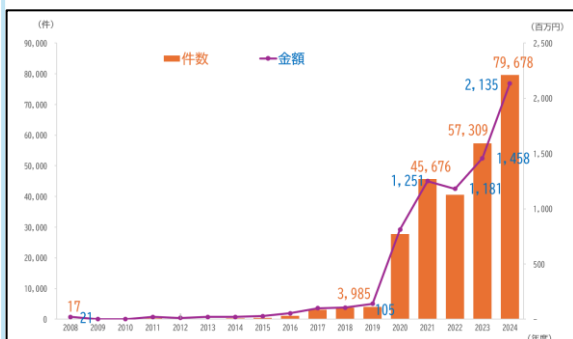
コロナ禍から回復傾向にあるが、震災前の水準には戻っていない。



資料:観光交流推進室

ふるさと納税 受入額・受入件数の推移

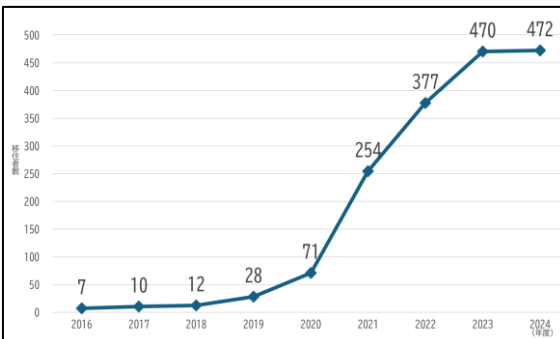
まちづくり賛同型のふるさと納税の推進により、くだものをはじめとする本市の魅力が全国に広まり、2020年度より大きく増加している。5年連続県内No.1の受入額となっている。



資料:政策調整課

移住者数の推移

本市の移住促進事業等を通じて転入した移住者は過去最多を更新して増え続けているが、増加ペースに鈍化の兆しが見え始めている。



資料:出会い移住・多文化共生課

現状と課題

地域資源を活用したまちのブランド化と持続的な人の流れの形成が求められています

●コロナ禍で落ち込んでいたインバウンドの回復や道の駅ふくしまのオープンなどもあり、観光客入込数は過去最高値の更新が続いています。一方で、本市の主要観光地である花見山やふくしま三名湯は、回復基調にありますが、コロナ禍前の水準には戻っていない状況です。

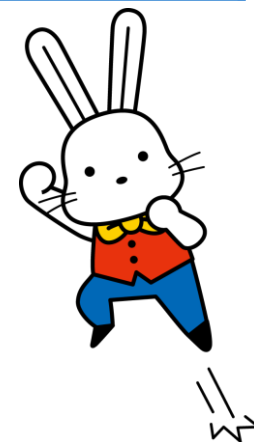
●観光資源が点在し、回遊や滞在につながりにくく、経済波及効果が限定的であるため、滞在期間の延長、宿泊の促進につなげるプロモーションの展開やインバウンド需要のさらなる取り込みなどが求められます。

●観光振興の主役である観光事業者等が、稼ぐ力を高め、活動することによって、市内全体への経済波及効果が生まれます。また、市民は、地域を知り、理解を深めることで本市への誇りと愛着を持ち、観光地域づくりに参画することが求められます。

●来訪者との継続的な関係づくりにより交流人口の拡大を図るとともに、地域資源を生かした魅力の向上、まちのブランド化などにより関係人口の創出につなげていくことが重要です。

●近年、受入額・受入件数ともに増加傾向で推移しているふるさと納税をはじめ、効果的にシティセールス⁽¹⁾を展開していく必要があります。

●本市とのつながりの機会提供により、まちの活性化や移住定住へとつなげていくことが重要です。本市への移住者は増加傾向で推移していますが、引き続き、総合的な取組として移住を希望する方への支援を充実させていくことが必要です。



(1)シティセールス:地域の活性化を図るため、地域の魅力を広く発信し、人・カネ・企業などの資源を地域に取り込む一連の活動。

(15)

点を線にする地域資源の発掘と ブランド化の推進

【花見山の様子】

8年後の姿

地域経済が活性化し、人や企業から選ばれるまちとなり、本市の価値を高める好循環が創出されています。
魅力ある観光地として市民の誇りと愛着が深まっています。

みんなの想い

花見山や温泉など福島市ならではの魅力がさらに磨かれ、訪れたいまちになっている！

福島市の魅力がより多くの人に伝わり、にぎわいのある元気なまちになっている！

観光事業者等が主役になり、市民や行政が力を合わせて、魅力ある観光のまちづくりが進んでいる！

市民や来訪者が、福島市をもっと、ずっと、好きになり、誇りと愛着が持てるまちとなっている！

この分野の主な課題

(詳細はP59、60)

- ・観光資源の磨き上げとブランド化
- ・回遊・滞在の促進
- ・観光地域づくり



未来に向けた施策の方向性



① 「ふくしまならでは」を象徴する魅力の確立

観光資源(「ふくしまらしさ」)を磨き上げ、受入体制を強化し、唯一無二の「ふくしまならでは」を象徴する魅力を確立します。

施策例:春の花見山おもてなし、温泉地活性化の推進 など

② 観光プロモーションの強化

観光にかかるデータを活用し、点在する観光資源を「線(テーマや移動手段等)」で結び、ストーリー性のある「面」としてブランド化を図ります。また、観光ニーズやターゲットを捉えた戦略的なプロモーションを展開し、観光消費の拡大と地域経済の活性化につなげます。

施策例:観光プロモーションの展開、ロケツーリズムの推進 など

③ 民間主導による観光振興

観光事業者等の民間が主体的に「稼ぐ力」を発揮できる環境を整え、行政はこれを支援・後押しします。また、市民・事業者・行政が同じ目標を共有し、連携・協働による一体的な観光振興を進めます。

施策例:地域DMO等との連動、官民連携体制の構築 など

④ 持続可能な観光地域づくり

観光人材の育成や市民の観光への理解促進を図り、本市への誇りや愛着を醸成します。また、将来に残したいと思える魅力的な観光地域づくりを行います。

施策例:観光人材の育成、観光資源の保全・管理 など



【飯坂温泉(鯖湖湯)】



【浄土平(磐梯吾妻スカイライン)】

関連する個別計画等

○(仮称)福島市観光共創ビジョン

(16) 関係人口の創出と移住定住支援



【荒川区都市間交流(田植え)の様子】

8年後の姿

福島市の魅力や価値への共感が広がり、愛着と応援の輪が育まれることで、多様な形で地域と関わる人が増え、移住や定住にもつながっています。

みんなの想い

福島市の魅力が全国に伝わり、
たくさんの人が応援してくれている！

新しく来た人も以前から住んでいる人も一
緒にまちづくりを盛り上げている！

隣の市やまちと協力しながらエリア全体
が元気になっている！

進学・就職を機に都会へ転出した学生や若
者、子育て世代が、Uターンし安心して暮ら
している！



この分野の主な課題

(詳細はP59、60)

- ・関係人口の創出
- ・本市とのつながりの拡大
- ・移住者の定着

未来に向けた施策の方向性



① ふるさと納税の推進・シティセールス(交流機会創出など)

ふるさと納税制度をはじめとした効果的なシティセールス⁽¹⁾を推進し、関係人口の創出につなげます。

施策例：ふるさと納税の推進、首都圏在住の本市ゆかりの方との交流会 など

② 個性ある地域づくり

多様な主体と連携し、各地区独自の資源を生かしたまちづくりを進めることで、移住者も含めた住民や市外の方、本市出身者など、みんなが魅力を感じられる地域づくりを推進します。

施策例：地域の特色を生かしたまちづくり、地域おこし協力隊との地域づくり など

③ 移住支援(住環境支援など)

移住希望者が望む理想の暮らしの実現を後押しし、地域への定着につなげます。

施策例：ワンストップ相談窓口による移住支援、空き家・空き地バンク、
空き家リフォーム支援補助 など

④ 広域連携

ふくしま田園中枢都市圏⁽²⁾の構成市町村が「暮らしやすい、住み続けたい」と思えるような魅力あふれる都市圏を目指し、各施策に連携して取り組みます。また、国内交流都市との地域間連携により、経済交流による関係人口創出や行政課題の解決に向けた情報共有などで相互に協力し、地域の活性化や市民サービスの向上へつなげます。

施策例：ふくしま田園中枢都市圏連携魅力発信事業、都市間交流 など

関連する個別計画等

○ふくしま田園中枢都市圏ビジョン ○福島市共創のまちづくり推進指針

○ふくしま共創のまちづくり計画 ○(仮称)福島市空き家・空き地対策計画

(1)シティセールス：地域の活性化を図るため、地域の魅力を広く発信し、人・カネ・企業などの資源を地域に取り込む一連の活動。
(2)ふくしま田園中枢都市圏：福島市、二本松市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町、大玉村、飯舘村の9市町村を構成団体とし、魅力あふれる圏域の実現に向けた取組を「ふくしま田園中枢都市圏ビジョン」に基づき計画的に推進している。

7 災害や危機に強く、安全に暮らせるまち

分野名・プロジェクト名

防災・減災

(17) 危機管理体制・地域防災力の強化

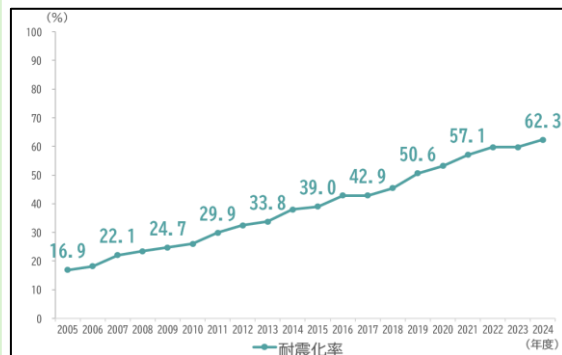
復興

(18) 震災の教訓の継承と復興の推進

主なデータから見る現状

重要橋梁の耐震補強整備率

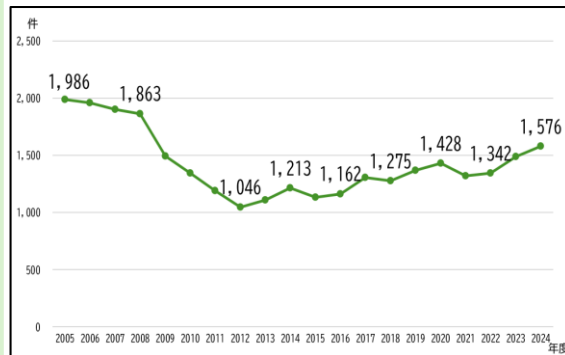
重要橋梁77橋の耐震補強整備率は62%と確実に進捗している。



資料:耐震化完了の重要橋梁(77橋)一覧

消費生活相談件数

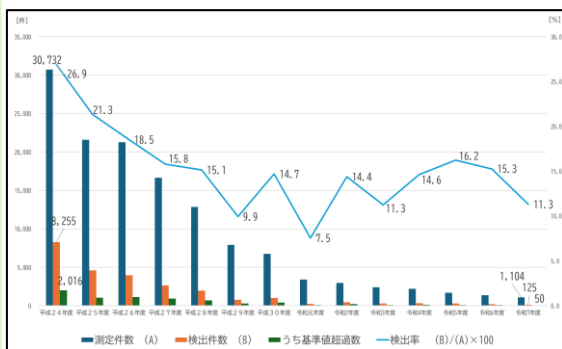
2012年度以降は増加傾向にある。



資料:ふくしまの消費者行政

自家消費食品測定事業測定件数及び放射能検出率

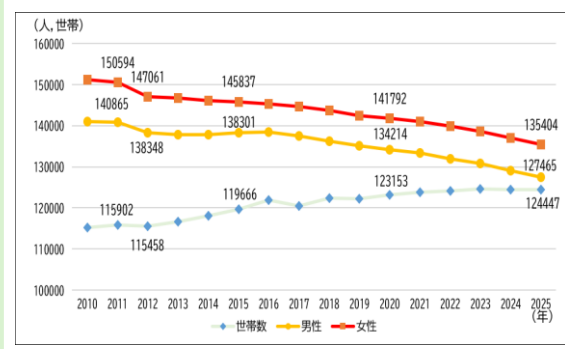
山野でとれる山菜やキノコ類から一定の割合で検出されている。



出典:環境衛生課

震災後人口推移

震災後の人口は男女ともに減少傾向にある。



資料:福島市住民基本台帳

現状と課題

激甚化・頻発化する災害等への対応と復興の継承が求められています

●自然災害の激甚化・頻発化が進む中、事前の対策や被害の回避・軽減を図る取組の重要性が高まっています。地域コミュニティの希薄化が課題となる中で、一人ひとりの自助⁽¹⁾・共助⁽²⁾の意識を高め、地域防災力の強化を図るとともに、災害リスクを踏まえた道路、上下水道などの都市インフラ⁽³⁾の整備や避難体制の強化など、安全安心な暮らしを担保する必要があります。

●近年、全国各地でクマなど野生動物の市街地出没や大規模な林野火災が相次ぐなど、生活環境における危機事象への対策が必要となっています。

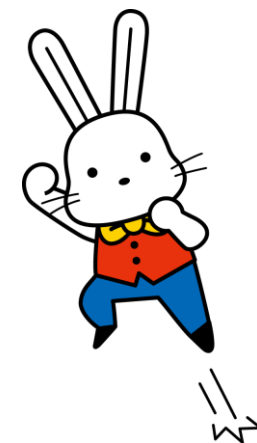
●急増するインターネットやSNS⁽⁴⁾を利用した詐欺等をはじめとした犯罪及び交通事故等がなく安心して暮らせるよう、市民の生命と財産を守るための体制の構築が求められます。

●東日本大震災・原子力災害について、復興は着実に進展しているものの、今なお放射線への不安や風評は残っており、今後も、国・県・被災市町村などと連携を図りながら、継続的な対策とその姿を国内外に発信していく必要があります。

●特に震災を経験していない若い世代が増える中で、その記憶と教訓をしっかりと継承していく責任があります。



【交通教育専門員の活動】



(1)自助:自分(家族)の身を自分で守ること。
 (2)共助:地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと。
 (3)インフラ:”infrastructure”(infra-「下に、下部に」、structure「構造、機構」)
 道路、鉄道、上下水道、電気、ガス、通信網のほか、学校、病院、公営住宅、公園などの市民生活や企業活動の基盤となる施設。
 (4)SNS:Social Networking Service(ソーシャルネットワーキングサービス)の略称。登録者同士が交流できるインターネットの会員制サービスのこと。代表的なものにX、Facebook、Instagram、LINEなどがある。

(17) 危機管理体制・地域防災力の強化

【倒壊家屋からの救出訓練】

8年後の姿

災害や様々な危機事象をはじめ、日常生活における安全対策への備えが進み、地域全体で支え合う体制が構築されています。
防災DXなど新技術により迅速で的確な対応が行われ、多様化するリスクにも対応しながら、誰もが安全・安心を実感しています。

みんなの想い

ゲリラ豪雨の発生に対応できる道路や排水機能が整っている！

災害対策や防犯力が強化され、市民が安心して暮らせるまちになっている！

防災に関する情報が、こどもから高齢者までわかりやすく発信され、自分事としてリスクを把握している！

ツキノワグマなど野生動物の市街地への出没といった新たな危機事象への対策が進んでいる！

悪質商法等の被害にあわないための消費者教育が充実している！

この分野の主な課題

(詳細はP65、66)

- ・地域防災力の強化
- ・暮らしの安全・安心の確保
- ・災害に強い都市基盤の整備



未来に向けた施策の方向性



① 危機管理(防災・減災対策など)・防災DX

災害時に最も重要となる自助⁽¹⁾・共助⁽²⁾の取組を進めるため、あらゆる世代に日頃の備えや災害時のリスクなどを考える機会を提供するとともに、防災DX⁽³⁾を推進し、業務の負担軽減に取り組むことで公助⁽⁴⁾の最適化を図り、よりの確な災害対応と人口減少下での体制確保を進めます。

施策例：総合防災情報システムの運用、総合防災訓練 など

② 暮らしの安全・安心(防犯・交通安全・消費生活)

地域での見守りや啓発、警察や地域団体との連携による安全対策を強化することにより、犯罪や交通事故、消費者被害の未然防止に努めます。

施策例：交通安全対策、消費者トラブルの未然防止 など

③ 暮らしの安全・安心(インフラ)

道路・河川・下水道などの整備や適切な維持管理により、効率的かつ迅速な浸水対策を推進します。また、インフラ⁽⁵⁾の耐震化など地震対策に努めます。

施策例：雨水浸水対策、橋梁・上下水道等の耐震化 など

④ 消防・救急体制

激甚化・頻発化する災害等に迅速かつ的確に対応できる消防・救急体制を構築するため、業務の高度化・専門化を推進するとともに、関係機関との連携を強化し、総合的な消防力の向上を図ります。

施策例：消防本部・福島消防署の整備、高機能消防指令システムの運用 など

⑤ 新たなリスクへの対応強化(野生動物の市街地出没、林野火災など)

全国的に頻発しているツキノワグマ等の市街地出没や大規模林野火災などの新たなリスクに対し、迅速かつ的確に対応できる体制の構築を図ります。

施策例：クマ出没防止、危険鳥獣捕獲体制の構築 など

関連する個別計画等

- | | | |
|---------------|--------------|----------------|
| ○福島市総合治水計画 | ○福島市地域防災計画 | ○福島市業務継続計画 |
| ○福島市国土強靱化地域計画 | ○福島市消費生活基本計画 | ○福島市橋梁長寿命化修繕計画 |
| ○福島市消防基本計画 | ○福島市新時代消防団計画 | ○福島市上下水道耐震化計画 |

- (1)自助：自分(家族)の身を自分で守ること。
 (2)共助：地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うこと。
 (3)防災DX：防災分野においてデジタル技術を活用し、災害対応の効率化と高度化を図ること。
 (4)公助：市町村や消防、県や警察、自衛隊といった公的機関による救助・援助。
 (5)インフラ：“infrastructure”(infra-「下に、下部に」、structure「構造、機構」)
 道路、鉄道、上下水道、電気、ガス、通信網のほか、学校、病院、公営住宅、公園などの市民生活や企業活動の基盤となる施設。

(18) 震災の教訓の継承と復興の推進

【復興イベント ブルーインパルスの飛行】

8年後の姿

震災の記憶と教訓が世代を超えて受け継がれ、その経験を生かした防災教育が地域に根づいています。
安心して暮らせる環境が整い、その歩みや経験が国内外へ発信され、未来への希望につながっています。

みんなの想い

福島市の復興が、国内だけでなく、世界からも認められている！

震災の教訓が、福島市の大切な知識として引き継がれていて、みんなで共有し学ぶ機会が充実している！

放射線に関する基本的な情報や正確な情報が発信されている！

この分野の主な課題

(詳細はP65、66)

- ・震災の記憶と教訓の継承
- ・復興の発信と風評対策
- ・放射線への理解促進



未来に向けた施策の方向性



① 復興発信

東日本大震災・原発事故から学び、経験したことを、震災の知らない世代にも継承しながら、国内外に向けて笑顔で安心して暮らす市民の姿や元気なまちの姿をPRします。

施策例：震災復興発信、地域の魅力に関する情報発信 など

② 震災の教訓を生かした防災教育

学校教育、社会教育、地域活動をつなぎ、こどもから大人までが防災を自分ごととして学び行動できる環境づくりを推進します。

施策例：市民一人ひとりの災害対応力の向上、実効性のある防災体制の整備 など

③ 放射線対策

放射線などに関する情報を継続して発信し、市民が健康情報を正しく理解し活用できるよう支援します。

施策例：放射線健康管理に関する健康講座、個別相談 など



市産農産物(出荷物)における放射性物質の基準値超過なしの期間														
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
果物														
野菜														
きのこ 山菜等														
水														

2012年以降
全て基準値以下



食品中の放射線物質に関する基準

単位：Bq/kg(ベクレル/キログラム)
※Bqは物質が発する放射線の単位

区分	日本	EU	アメリカ
一般食品	100	1,250	1,200
飲料水	10	1,000	1,200
牛乳・乳製品	50	1,000	1,200

【食の安全を確保するため、農産物などの放射性物質の検査を行ってきました。2012年以降、放射性物質の検査では、すべて基準値以下という結果が出ており、安全が確認されています。】

関連する個別計画等

○福島市健康管理実施計画

○福島市地域防災計画

8 自然と共生し、環境にやさしい持続可能なまち

分野名・プロジェクト名

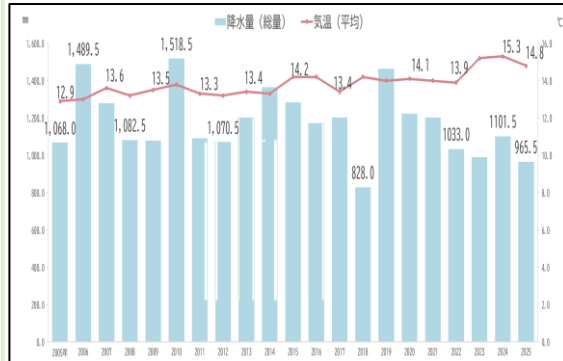
環境・脱炭素

(19) 脱炭素社会の形成と環境保全・自然との共生の推進

主なデータから見る現状

气象概況(降水量・気温)

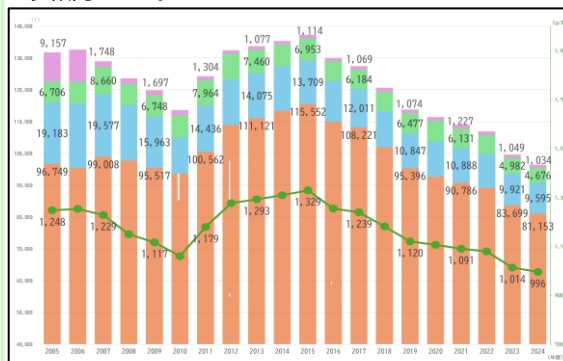
気温が緩やかに上昇し、降水量は年ごとの変動が大きくなっている。



資料:気象資料

ごみの種類別排出量

2016年度以降は資源にできない燃やすごみを中心に減少傾向にある。



資料:環境省一般廃棄物処理実態調査他

温室効果ガス排出量

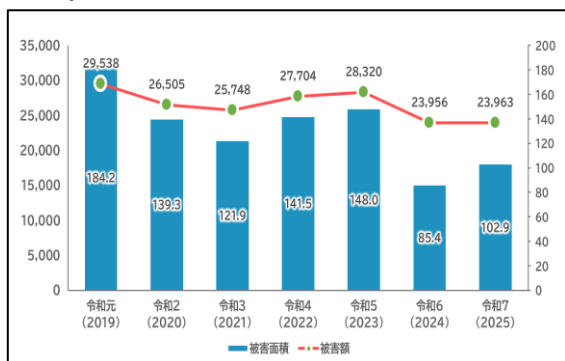
全体の温室効果ガス実質排出量は減少傾向にあるが、2020年以降減少幅が鈍化している。



資料:環境省一般廃棄物処理実態調査他

有害鳥獣による農作物被害

2019年度以降は、被害面積・被害額ともに、減少傾向にある。



資料:福島市農業・農村振興計画年次報告

現 状 と 課 題

脱炭素・循環型社会への対応と豊かな自然環境の保全・継承、生活環境の確保が求められています

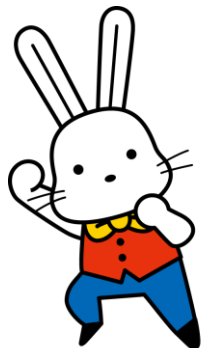
●私たちは深刻な環境危機に直面しています。近年の集中豪雨や猛暑日の増加などの気候危機は、地球温暖化の急速な進行とともにその影響が拡大しており、今後さらなる深刻化が懸念されます。地球温暖化を抑制するためには、徹底した省エネルギー⁽¹⁾の推進や地域と共生する再生可能エネルギー⁽²⁾の導入・利用、生活様式の転換などの取組を推し進め、地球温暖化の原因となる温室効果ガスを削減することが不可欠です。

●ごみの減量も喫緊の課題です。本市はごみの排出量が多く、2015年（平成27年）をピークに年々減少しているものの、全国平均に比べて2割ほど多い状況です。より一層のごみ排出量の削減や資源の有効利用を進め、最終処分場の延命化にも寄与しながら、循環型社会の実現に取り組んでいくことが必要です。

●市民ワークショップやアンケートにおいて、美しい自然が本市の魅力であるという声が多数寄せられました。本市の自然環境は、災害から市民を守り、水資源、多様な生物や歴史・文化を育む場となってきた一方で、人間活動による負荷の蓄積が懸念されています。新たな課題として、山地等への大規模な太陽光発電設備(メガソーラー)などの立地は、自然破壊や景観の悪化といった負の側面を生じさせています。

●生物多様性⁽³⁾の保全や野生動物との共生が重要である反面、カラス・ムクドリ・イノシシなどの野生鳥獣や特定外来生物による問題が頻発・多様化しており、自然環境の保全と良好な生活環境の確保を両立する取組が求められます。

●環境リスクを最小限に留め、美しく豊かな本市の自然環境・生活環境を次世代へ継承していくことが必要です。



- (1)省エネルギー:限りあるエネルギー資源を効率よく使い、無駄な消費を減らすこと。
(2)再生可能エネルギー:太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど、枯渇しない自然界のエネルギーを源とするエネルギー。
(3)生物多様性:生物の多様とその生息環境の多様さのことで、生態系は多様な生物が生息するほど健全であり、安定している。

脱炭素社会の形成と環境保全・自然との共生の推進

「ふくしまエコ探検隊」の環境学習

8年後の姿

脱炭素や資源循環の意識が育まれ、環境に配慮した行動が地域全体に広がることで、環境にやさしいまちになっています。
豊かな自然や生活環境が守られ、人と自然が共生することで、誰もが潤いや安らぎを実感しています。

みんなの想い

再生可能エネルギーが普及し、省エネルギーや公共交通の利用、マイバック持参など、環境問題を自分事として捉え、環境にやさしいライフスタイルが定着している！

共同で利用できるリサイクルBOXの設置が増え、リサイクルが進んでいる！

磐梯吾妻スカイラインや荒川、花見山、吾妻山などの美しく豊かな自然を眺めることができる！

ポイ捨てがなく緑地や水辺が守られ、きれいなまちになっている！

この分野の主な課題

(詳細はP71、72)

- ・温室効果ガスの削減
- ・ごみの減量化と循環型社会の形成
- ・自然との共生と環境保全

未来に向けた施策の方向性

① 地域と共生する再生可能エネルギー・環境教育

ゼロカーボン社会⁽¹⁾の実現を目指し、徹底した省エネルギー⁽²⁾の推進や地域と共生する再生可能エネルギー⁽³⁾の導入・利用、脱炭素型の生活様式への転換、環境に配慮した行動の輪を広げる環境教育・学習の推進など、分野横断的な取組を進めます。

施策例：脱炭素型ライフスタイルの普及推進、建築物の省エネ化 など

② ごみ減量と資源循環

廃棄物の発生を抑制し、ごみの減量化・資源化を総合的かつ計画的に推進するとともに、多様な地域資源循環の取組を進めます。

施策例：ごみ分別や適正排出の推進、3R⁽⁴⁾の推進 など



生ごみ処理容器「キエーロ」

③ 自然環境の保全

豊かな森林を保全し再生することで、自然環境と生態系バランスを良好に保つ取組を進めます。また、身近に季節を感じ、生活に潤いと安らぎをもたらす緑豊かなまちづくりを官民共創により推進します。

施策例：森林や水辺の保全と活用、生物多様性の保全⁽⁵⁾ など

④ 生活環境の保全

美しい景観や私たちの生活を支える水資源、大気環境、生活環境を守るとともに、ポイ捨てのない美しいまちづくりを進めます。

施策例：水質や大気環境の監視・保全、地域の環境保全・美化活動の推進 など

関連する個別計画等

- | | | |
|--------------|-------------------------|-----------------|
| ○福島市環境基本計画 | ○福島市脱炭素社会実現実行計画 | ○福島市一般廃棄物処理基本計画 |
| ○福島市花と緑の基本計画 | ○福島市景観形成基本計画 | ○福島市景観まちづくり計画 |
| ○福島市森林ビジョン | ○福島市ポイ捨てのない美しいまちづくり行動計画 | |

(1)ゼロカーボン社会：地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO2)などの温室効果ガスの実質的な排出量をゼロにした社会のこと。福島市は令和3年2月25日に、2050年までにゼロカーボン社会の実現を目指すことを表明している(ゼロカーボンシティ宣言)。
(2)省エネルギー：限りあるエネルギー資源を効率よく使い、無駄な消費を減らすこと。
(3)再生可能エネルギー：太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなど、枯渇しない自然界のエネルギーを源とするエネルギー。
(4)3R(スリーアール)：資源を大切に3つの取組、Reduce(リデュース=必要なものだけを買ってごみを減らす)、Reuse(リユース=繰り返し使う)、Recycle(リサイクル=資源化して再生利用する)の総称。
(5)生物多様性：生物の多様さとその生息環境の多様さのことで、生態系は多様な生物が生息するほど健全であり、安定している。

9 効率的で質の高い地域経営 を行い、発展し続けるまち

分野名・プロジェクト名

情報発信

(20) 伝わる、動く戦略的な情報発信

デジタル・AI

(21) あらゆる利便性を飛躍させるDX・AXの推進

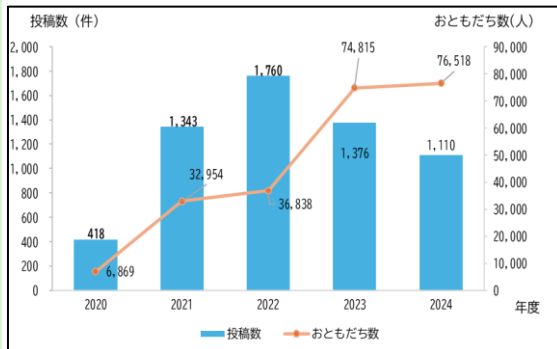
地域経営

(22) 効率的で質の高い地域経営

主なデータから見る現状

市公式 LINE の配信・登録状況

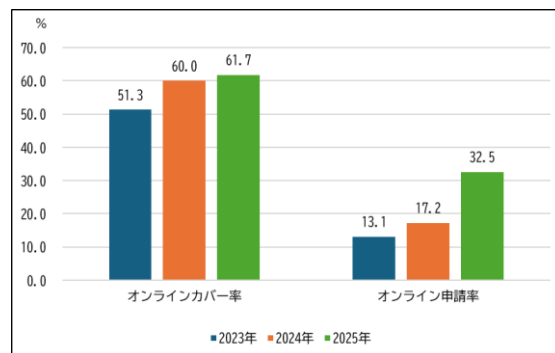
登録者数は新型コロナワクチン、福島市デジタルクーポンを機に急増し、全体的にも年々増加している。



資料：広報課

オンライン化進捗状況

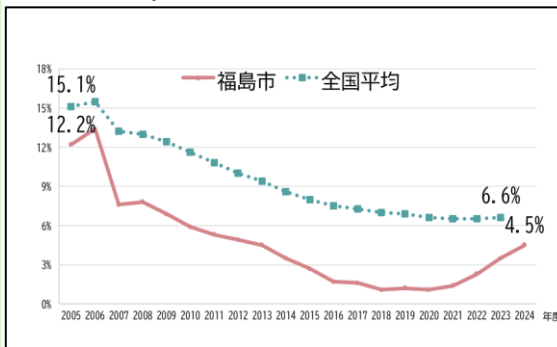
オンライン申請率が依然として低い状況にある。



資料：情報企画課

実質公債費比率

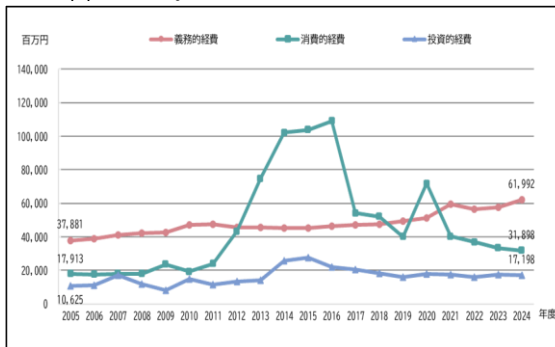
大型公共施設の更新等があり、2021 年度より増加傾向となっている。



資料：総務省 地方財政状況調査関係資料

義務的経費・消費的経費・投資的経費 の決算額

近年は扶助費などの義務的経費が消費及び投資的経費を上回っている。



資料：福島市決算カード

現状と課題

デジタル化の進展と効率的な地域経営の推進が求められています

●情報発信について、本市は魅力ある地域資源を有しているものの、十分にPRできていないという点が課題とされています。

●市公式LINEやYouTubeの登録者数等は増加傾向にある中、配信内容の磨き上げを行い、誰にでもわかりやすく魅力的なコンテンツが届く情報発信を国内外に広く行っていく必要があります。

●新型コロナウイルス感染症は、社会に大きな変化をもたらしました。新しい生活様式に対応するため、デジタル技術の活用が一段と進展し、暮らしや働き方、行政サービスのあり方は大きく変化しています。

●本市においては、オンライン申請率の低さや、デジタルに不安を抱える市民への対応、庁内のデジタル人材の育成や業務改革の推進などが課題となっています。また、デジタル化の進展に伴い、デジタル格差への対応や誰もが利便性を実感できる環境整備が求められています。

●本市の財政状況について、財政の健全性を示す指標の一つである実質公債費比率が、年々増加しています。過度な借入は、将来世代に負担を残し、財政運営を硬直化させる要因にもなるため、常にその動向に細心の注意を払う必要があります。

●今後、扶助費などの義務的経費が増加する中、東口再開発⁽¹⁾をはじめとする大型事業や施設の老朽化対策などにより、投資的経費が高水準で推移することが予想され、将来の財源不足が懸念されます。

●市民や民間などあらゆる主体が連携しながら、「地域経営」の意識を持ち、地域全体のDX⁽²⁾、人や投資を呼び込む取組も展開しながら、持続可能なまちづくりを進める必要があります。

●深刻な人口減少や人手不足等に対応するため、基盤となるDXの取組を進めるとともに、AI⁽³⁾の進展を踏まえた新たな変革の概念である「AX⁽⁴⁾」を積極的に取り入れ、AIの利活用を一体的に推進していく必要があります。

●複雑化する市民ニーズや厳しい財政環境など、激しく変化する社会情勢に柔軟かつスピード感をもって対応するため、より効率的で効果的な行財政経営が求められています。

(1)東口再開発：福島駅東口地区第一種市街地再開発事業は民間施行による再開発事業。再開発施設の中に市の駅前交流・集客拠点施設の機能を組み込んで整備する。

(2)DX：デジタル技術で人々の生活をより良いものに変革すること。Digital Transformation(デジタルトランスフォーメーション)の略称。

(3)AI：人工的に作られた人間のような知能や技術のこと。Artificial Intelligence(アーティフィシャル インテリジェンス：人工知能)の略称。

(4)AX：AIを前提として意思決定や業務の進め方を根底から見直すこと。AITransformation(エーアイトランスフォーメーション)の略称。

伝わる、動く戦略的な情報発信

「デジタル広報(ホームページやLINEなど)」

8年後の姿

必要な情報や本市の魅力、まちづくりの成果がわかりやすく伝わっています。
市民や来訪者の理解と共感が広がり、一人ひとりの行動や参画につながっています。

みんなの想い

市の広報やSNS⁽¹⁾でこのまちの魅力を感じることができる！

市の取組が、ひとり暮らしの高齢者にもわかりやすい、紙媒体とデジタル配信を両立した適切なボリュームで広報されている！

市の動きが見える化していて、タイムリーに身近に感じることができる！

市民が福島市の未来や自分の将来を考え活発に話し合い、積極的にまちづくりへ参画している！

この分野の主な課題

(詳細はP75、76)

- ・戦略的な情報発信
- ・市民との対話と共感の醸成
- ・市民主体の魅力発信と行動変容



未来に向けた施策の方向性



① 誰にでもわかりやすい情報発信

まちの良さが誰にでも伝わるよう、多様な手段でわかりやすい情報発信に取り組みます。

施策例：ふくしまエールビジョン(街頭ビジョン)による発信、デジタルサイネージの活用 など

② ターゲットに合わせた効果的な情報発信

年齢や利用環境にかかわらず必要な情報が伝わるよう、それぞれの対象に応じた効果的で親しみやすい情報発信を行います。

施策例：市政だよりの発行、市公式SNSの情報発信 など

③ 対話によるまちづくり

市民と市が対話を重ねながら未来への思いを共有し、ともにまちづくりを進めます。

施策例：分野別の意見交換会、市民との対話集会 など

④ まちの魅力の再認識と発信

まちの魅力を再認識し、愛着や誇りを育んだ市民が、市内外に向けてまち自慢を発信することで本市のファンを増やし、関係人口の拡大につなげます。

施策例：市民フォト・ふくしま夢つうしんの発行、ふくしま市政見学会 など

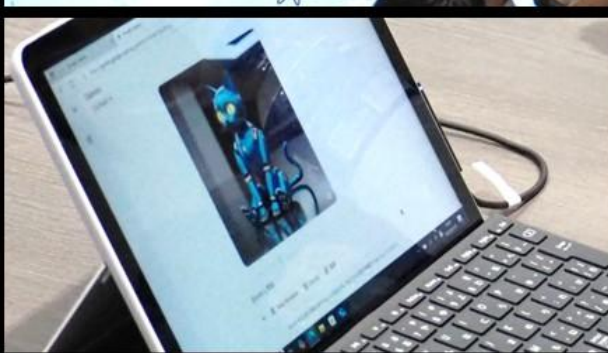


分野別意見交換会



アナログ広報
(市政だよりやふくしま夢つうしんなど)

(1) SNS: Social Networking Service(ソーシャルネットワーキングサービス)の略称。登録者同士が交流できるインターネットの会員制サービスのこと。代表的なものにX、Facebook、Instagram、LINEなどがある。

あらゆる利便性を飛躍させる
DX・AXの推進

「中学生が市内企業から生成AIを学ぶ」

8年後の姿

デジタル技術やAIが暮らしに溶け込み、市民がデジタルを意識することなく利便性を実感しています。
デジタルに不慣れな方も含め誰もが恩恵を享受し、地域課題の解決や新たな価値の創出が進んでいます。

みんなの想い

市役所に行かなくても、必要な手続きがオンラインで完了できる！

申請手続きが簡便化され、短時間で迷わず利用できる！

デジタルに不慣れな人でも安心して行政サービスを利用できる環境が整っている！

行政内部のデジタル化により業務効率化が進み、職員が市民対応により注力できている！

市民・地域団体・事業者等との連携により、地域課題の解決や新たなサービス創出が進んでいる！



この分野の主な課題

(詳細はP75、76)

- ・地域DX⁽¹⁾の推進
- ・誰もが利用しやすいデジタル環境
- ・デジタルによる行政サービスの向上

未来に向けた施策の方向性

① 行政サービスと地域のDX

アナログ中心の考え方からデジタル前提の変革を進め、市民の利便性向上と業務効率化を図ります。地域団体や事業者等と連携し、デジタルを活用して地域課題の解決に取り組むとともに、わかりやすく使いやすいサービスや新たな取組を進めます。

施策例: デジタル完結の手続きの推進、官民連携による地域DXの取組 など

② AIの活用とAXに向けた取組

AI⁽²⁾を活用し、24時間いつでも問い合わせや手続き案内が受けられる環境を整えます。また、AX⁽³⁾に向けて、AIの活用を前提とした業務の抜本的な見直しやデータ基盤の構築などに取り組めます。

施策例: AIエージェント⁽⁴⁾の導入検討、AIチャットボットの導入 など

③ 手続きのオンライン化

いつでもどこでも手続きができる環境に加えて、わかりやすく誰もが簡単に利用できる仕組みを整えます。

施策例: 行政手続きのオンライン申請の推進、窓口キャッシュレス決済 など

④ データ活用と手続きの簡素化

庁内外のデータを活用して、より良いサービス提供や課題解決につなげるとともに、マイナンバーカードによる本人確認やサービス連携により、手続きの簡素化と利便性の向上を進めます。

施策例: オープンデータの活用促進、コンビニ交付サービス など

⑤ やさしいデジタル化

シニアの方同士が地域で支え合うシニアICTサポーターの取組に加えて、書かない窓口などデジタルに不慣れな方にもやさしいデジタル化を進めます。

施策例: シニアICTサポーターの育成、スマートフォン利活用支援 など

関連する個別計画等

○福島市DX推進計画

- (1)DX: デジタル技術で人々の生活をより良いものに変革すること。Digital Transformation(デジタルトランスフォーメーション)の略称。
(2)AI: 人工的に作られた人間のような知能や技術のこと。Artificial Intelligence(アーティフィシャル インテリジェンス: 人工知能)の略称。
(3)AX: AIを前提として意思決定や業務の進め方を根底から見直すこと。AI Transformation(エーアイトランスフォーメーション)の略称。
(4)AIエージェント: 利用者の意図に応じ自律的に処理を実行するAIのこと。

「企業とのマッチングイベントの様子」

8年後の姿

市民、企業、地域、行政などが対話を重ね、目指す方向性を共有しています。

限られた資源を有効に活用し、人材育成や行財政改革などを進めることで、地域課題の解決や新たな価値の創出につなげ、持続可能で質の高い地域経営が行われています。

みんなの想い

官民一体など様々な団体が協力し合い、それぞれの強みを生かしたまちづくりが推進されている！

まちの現状や課題が目に見える数字で共有されている！

必要な未来の投資に予算が使われていることがわかって安心！

前例に捉われることなく、職員一人ひとりが能力を最大限に発揮し、質の高い行政サービスが提供されている！

この分野の主な課題

(詳細はP75、76)

- ・共創による地域経営
- ・持続可能な行財政基盤の構築
- ・行政経営の高度化

未来に向けた施策の方向性



① EBPM(証拠に基づく政策立案)の推進

市の現状を把握するため、様々な分野の統計データをグラフ・マッピング化で可視化を図り、市民との共有・理解促進に取り組みます。客観的データに基づいた根拠ある施策立案によるまちづくりを推進します。

施策例:データブックの活用、各計画等における活用 など

② 多様な主体と連携した地域経営

公民こねくと⁽¹⁾などを通じて、企業や大学などの多様な主体と行政が連携し、それぞれのアイデアやノウハウなどを活用し、地域課題解決や経済の活性化を図ります。

施策例:企業とのマッチングイベント、産官学連携プラットフォーム など

③ 効率的で柔軟な行財政運営

中長期的な視点で人や投資を呼び込む施策を展開しながら、事業の重点化やデジタル技術などを活用した業務の効率化により「賢い支出」を徹底するとともに、国・県補助金や有利な市債の活用、新たな歳入の確保など多様な財源の確保に積極的に取り組み、将来を見据えた持続可能な財政運営を行います。

施策例:行財政改革の推進、事業の見直し等による財源の捻出 など

④ 計画的な資産管理

公共施設を生活・産業の基盤と位置づけ、まちの価値向上のため、機能の選択や総量縮減に取り組むとともに、計画的な保全により、安全・快適・良好な資産管理を推進します。

施策例:公共施設等の総合的な管理、民間活力を導入した未利用公有財産の利活用 など

⑤ 人材育成及び確保(人材活躍の基盤強化)

社会情勢の変化を捉えた柔軟な発想による業務改善を進め、市民が必要とする質の高い行政サービスを提供します。また、複雑化・多様化する行政課題や市民ニーズに対応するため、人材の育成や多様な人材の確保により、個々の能力や経験を最大限に発揮し活躍できる組織づくりを進めます。

施策例:業務改善の取組、職員研修、ワーク・ライフ・バランスの推進 など

関連する個別計画等

- 福島市公共施設等総合管理計画
- 中期財政収支の見通し
- 福島市行財政経営ガイドライン
- 福島市人財活躍推進プラン
- 福島市定員適正化計画

(1)公民こねくと:公民連携のワンストップ窓口として、民間事業者等からの提案受付や取り組みに至るまでの調整を行っている。

SDGsの先へ～世界はつながっている～

人口減少や男女の平等、ごみの減量化など私たちの周りには多くの課題があります。また、世界に目を向けると、貧困や飢餓、気候変動やエネルギー供給など、各国が協力して取り組むべき課題が存在しています。みんながSDGs⁽¹⁾という共通の目標を掲げて行動することで、これらの課題解決を図りながら、誰一人取り残されない持続可能な社会を目指していきます。

福島市は、まちづくりに関する様々な取組を進める中で、SDGsの達成にも貢献していく指針としており、令和3(2021)年には、SDGsを先導的に進めていく自治体として、国から「SDGs未来都市」に選ばれました。この第7次福島市総合計画においても、引き続きSDGsの考え方を計画全体に共通する大切な理念として位置付け、2030年の目標達成に貢献していきます。

近年、SDGsの次なる目標として、人々の幸福度などに焦点を当てたSWG⁽²⁾について議論が進められています。その動向も踏まえながら、新たな視点として理解を深めていく必要があります。

私たちには、身の回りのことから考え、始めてみるのが求められます。私たち一人ひとりの行動はわずかでも、それが積み重なれば大きな成果となって、福島市を日本をそして世界を変えることにつながります。一人ひとりが世界とのつながりを感じながら、適切に情報をくみ取り、自分の意見を持ち行動を起こしていくことが重要です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



(1)SDGs:「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成する行動計画です。17の大きな目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲット、232の指標で構成されています。

(2)SWG:「Sustainable Well-being Goals(持続可能なウェルビーイング目標)」の略称で、2030年以降のポストSDGs時代における新しい社会目標の枠組みとして議論されている概念です。SDGsが経済成長を前提とした「開発目標」であるのに対し、SWGは人々の「幸福(ウェルビーイング)」を中心に据えた目標への転換を提唱しています。

福島市人口ビジョン (2026年(令和8年)12月)

- 1 福島市人口ビジョンについて
- 2 人口の現状分析
- 3 将来人口推計
- 4 人口目標と今後の取組の方向性

人口ビジョンは、人口の現状及び将来の見通しを踏まえ、今後の取組の方向性を示すものです。

近年、福島市の人口は減少傾向にあります。その主な要因として、出生数の減少や若い世代の転出超過などが挙げられます。

また、将来的に人口減少はさらに進む見通しです。

本ビジョンでは、今後の人口の動向とその影響を検証した上で、人口減少を緩やかにすることを旨とするとともに、人口が減少しても、市民一人ひとりが能力を発揮し、豊かに暮らせる社会を実現するため、今後の取組の方向性について整理しています。

1 福島市人口ビジョンについて

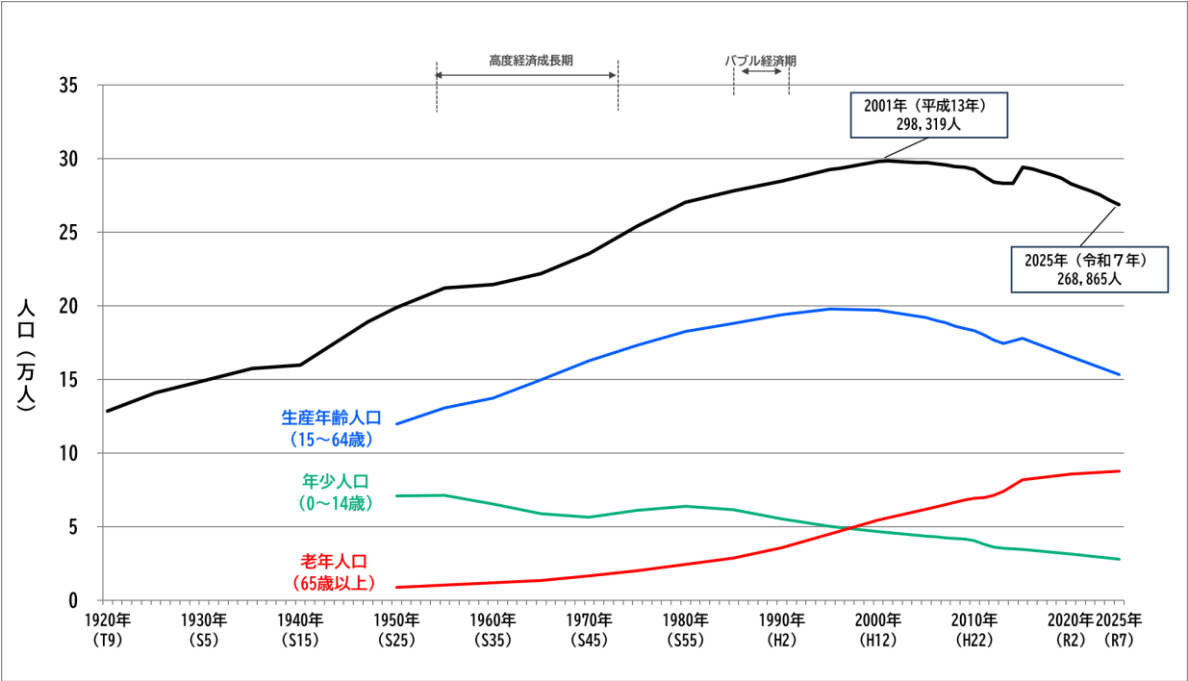
福島市人口ビジョンは、人口の現状及び将来の見通しを踏まえ、その動向に応じた目標を設定した上で、今後の取組の方向性を示すものです。

2 人口の現状分析

(1) 総人口の推移

本市の人口は、2025年(令和7年)10月1日現在268,865人となっており、2001年(平成13年)の298,319人をピークに減少に転じています。

【総人口と年齢3区分別人口の推移】



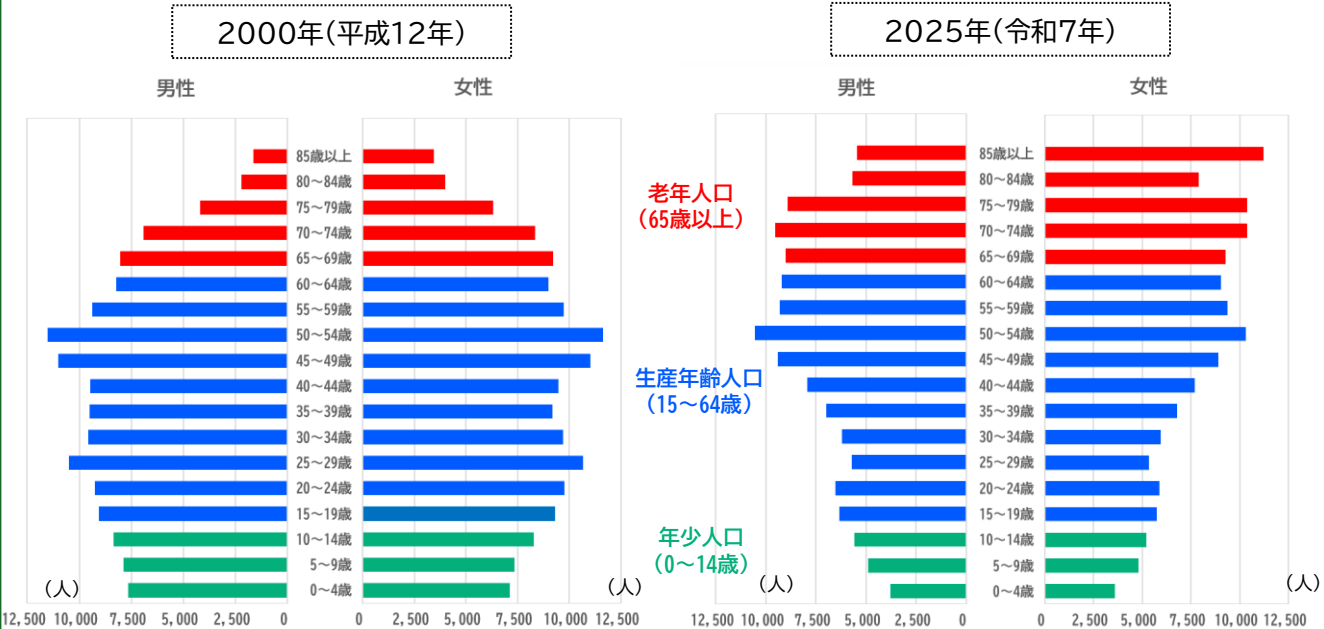
※総務省「国勢調査報告書」、福島市統計書、福島市推計人口より作成

【総人口の推移(各年10月1日現在)】

	推計人口	前年同月増減	参考		
			住民基本台帳人口	前年同月増減	推計と住基の差
2025年(R7)	268,865	△ 3,214	262,122	△ 3,216	6,743
2024年(R6)	272,079	△ 3,259	265,338	△ 3,285	6,741
2023年(R5)	275,338	△ 2,774	268,623	△ 2,782	6,715
2022年(R4)	278,112	△ 2,513	271,405	△ 2,499	6,707
2021年(R3)	280,625	△ 2,068	273,904	△ 2,062	6,721
2020年(R2)	282,693		275,966	△ 1,550	6,727
2019年(R元)	286,742	△ 2,250	277,516	△ 2,270	9,226
2018年(H30)	288,992	△ 2,018	279,786	△ 2,034	9,206
2017年(H29)	291,010	△ 2,171	281,820	△ 2,190	9,190
2016年(H28)	293,181	△ 1,066	284,010	△ 1,050	9,171
2015年(H27)	294,247		285,060		9,187

※推計人口:直近の国勢調査人口をもとに、住民基本台帳法による毎月の転入・転出及び出生・死亡数を集計した人口

【年齢3区分人口の推移】



総人口:297,887人

	人口	割合
年少人口	46,612人	15.6%
生産年齢人口	196,961人	66.1%
老齢人口	54,314人	18.2%

総人口:268,865人

	人口	割合
年少人口	27,922人	10.4%
生産年齢人口	153,235人	57.0%
老齢人口	87,708人	32.6%

※総務省「国勢調査報告書」、福島市推計人口より作成
※年齢不詳人口は、年齢判明分の人口に対する総人口(年齢不詳分を含む)比率を補正係数として各年齢別の人口に
乗じ、男女別に配分する。

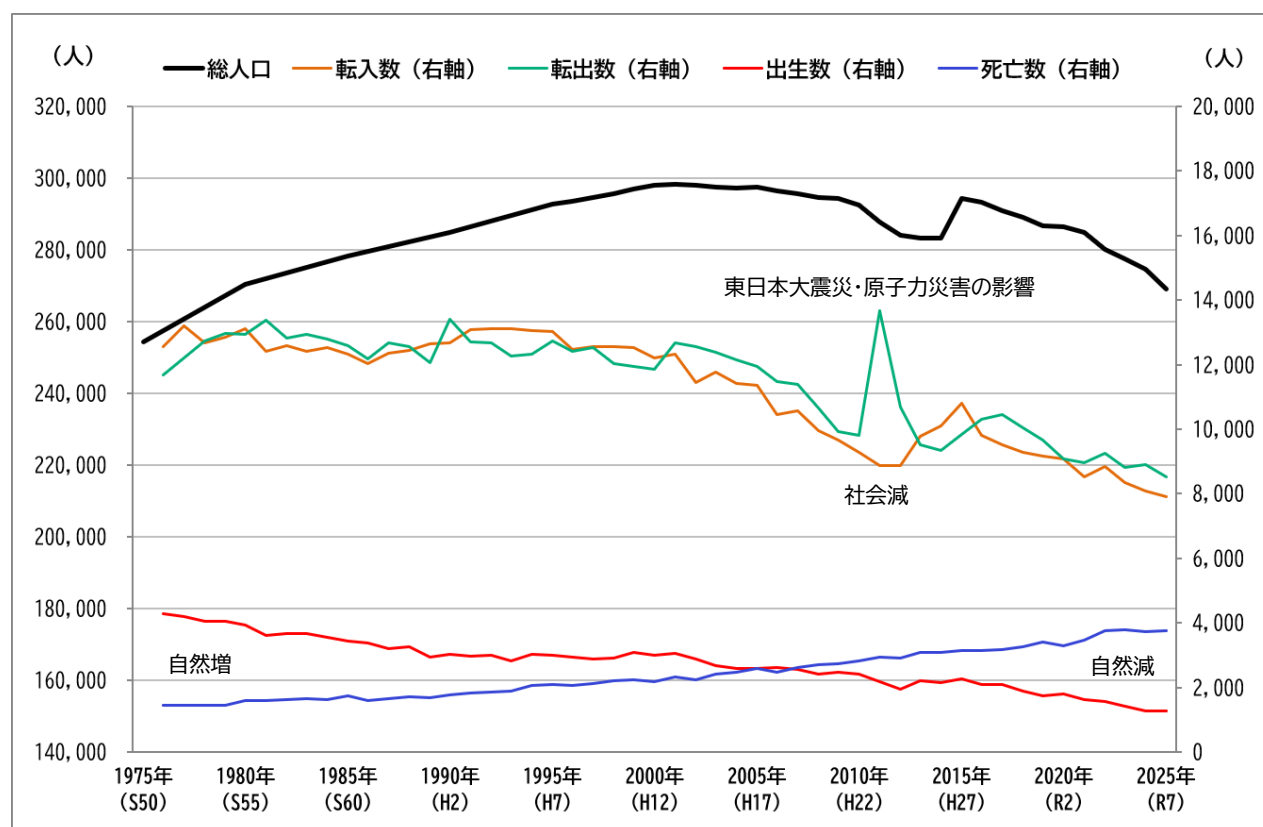
(2) 自然動態と社会動態の推移

出生数・死亡数の増減(自然動態⁽¹⁾)は、出生数は減少、死亡数は増加傾向が続いています。2007年(平成19年)以降は、死亡数が出生数を上回り、自然減⁽²⁾が続いています。

転入数・転出数の増減(社会動態⁽³⁾)は、転入数は減少、転出数は増加傾向が続いています。2016年(平成28年)以降は、転出数が転入数を上回り、社会減⁽⁴⁾が続いています。

なお、2011年(平成23年)から2012年(平成24年)は、転入者よりも転出数が多くなっていますが、これは東日本大震災・原子力災害の影響と考えられます。

【出生数・死亡数／転入数・転出数の推移】



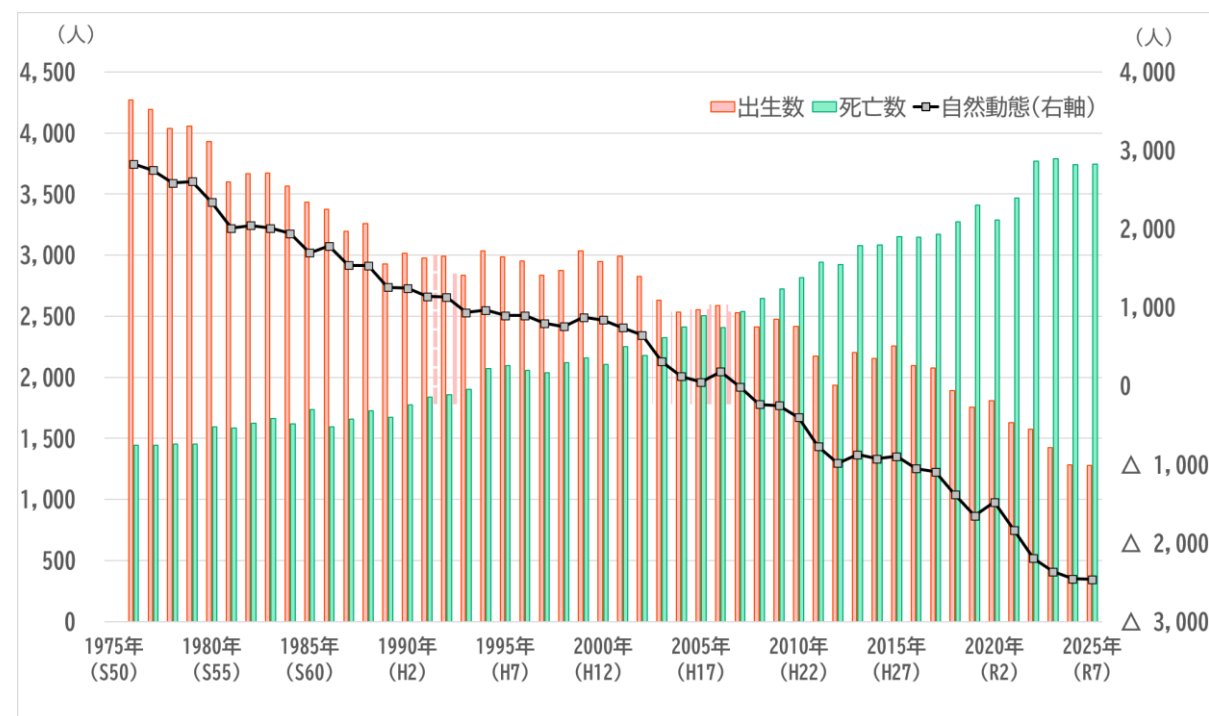
※総務省「国勢調査報告書」、福島市統計書、福島市推計人口より作成

- (1) 自然動態:一定期間における出生・死亡に伴う人口の動き。
- (2) 自然減:出生数と死亡数の差がマイナスの場合
- (3) 社会動態:一定期間における市外移動及び市内移動に伴う人口の動き。
- (4) 社会減:転入数と転出数の差がマイナスの場合。

(3) 自然動態

①出生数と死亡数の推移

出生数・死亡数は、出生数は年々減少、死亡数は増加を続けており、2007年(平成19年)を過ぎると自然減少に転じています。特に出生数は、2025年(令和7年)には過去最低の1,278人となり、死亡数との差も拡大しています。



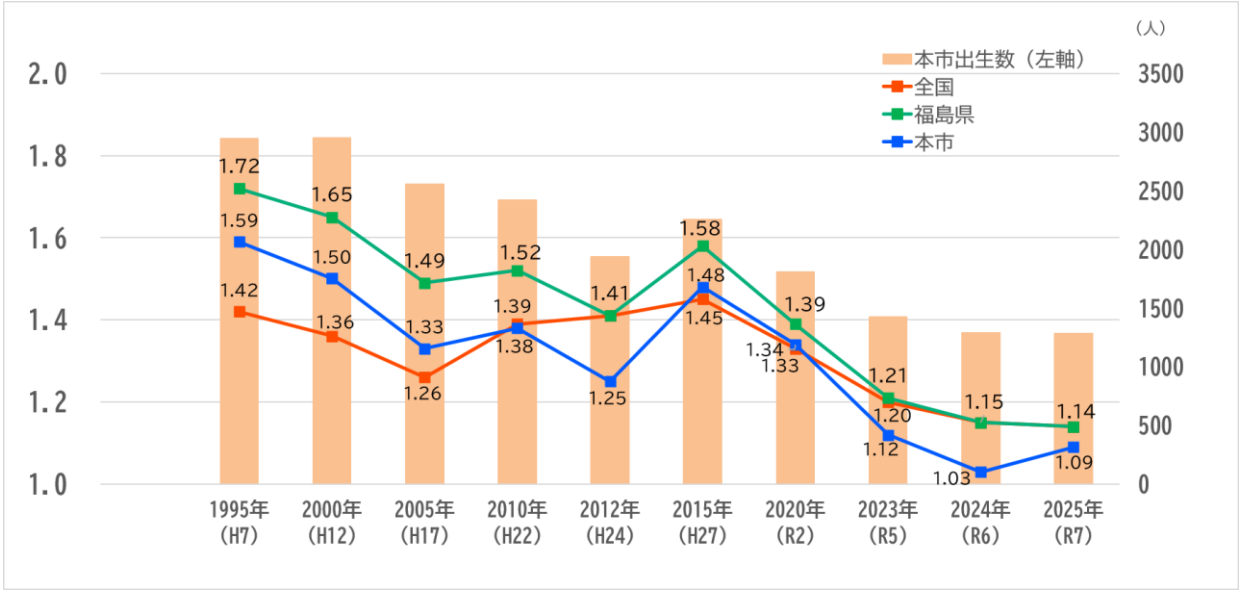
※福島市人口動態報告書より作成

②出生数・女性人口と合計特殊出生率

15～49歳の女性人口は、1995年(平成7年)以降減少を続けており、2025年(令和7年)には46,299人に減少しています。

本市の合計特殊出生率⁽¹⁾は、2015年(平成27年)に1.48と国の数値を上回るほどに増加したものの、その後は減少し、2024年(令和6年)には、過去最低の1.03に減少しています。

【出生数と合計特殊出生率の推移】



※福島市人口動態報告書より作成

【出生数・女性人口と合計特殊出生率の推移】

項目	1995年(H7)	2000年(H12)	2005年(H17)	2010年(H22)	2012年(H24)	2015年(H27)	2020年(R2)	2023年(R5)	2024年(R6)	2025年(R7)
出生数(人)	2,939	2,948	2,553	2,417	1,935	2,255	1,806	1,423	1,284	1,278
15～49歳女性人口(人)	71,935	69,099	65,196	60,591	57,654	56,140	51,210	47,986	46,617	46,299
総人口(人)	284,818	290,641	290,425	294,171	286,785	294,247	282,693	275,338	272,079	268,865
合計特殊出生率(国)	1.42	1.36	1.26	1.39	1.41	1.45	1.33	1.20	1.15	1.14
合計特殊出生率(県)	1.72	1.65	1.49	1.52	1.41	1.58	1.39	1.21	1.15	1.14
合計特殊出生率(市)	1.59	1.50	1.33	1.38	1.25	1.48	1.34	1.12	1.03	1.09

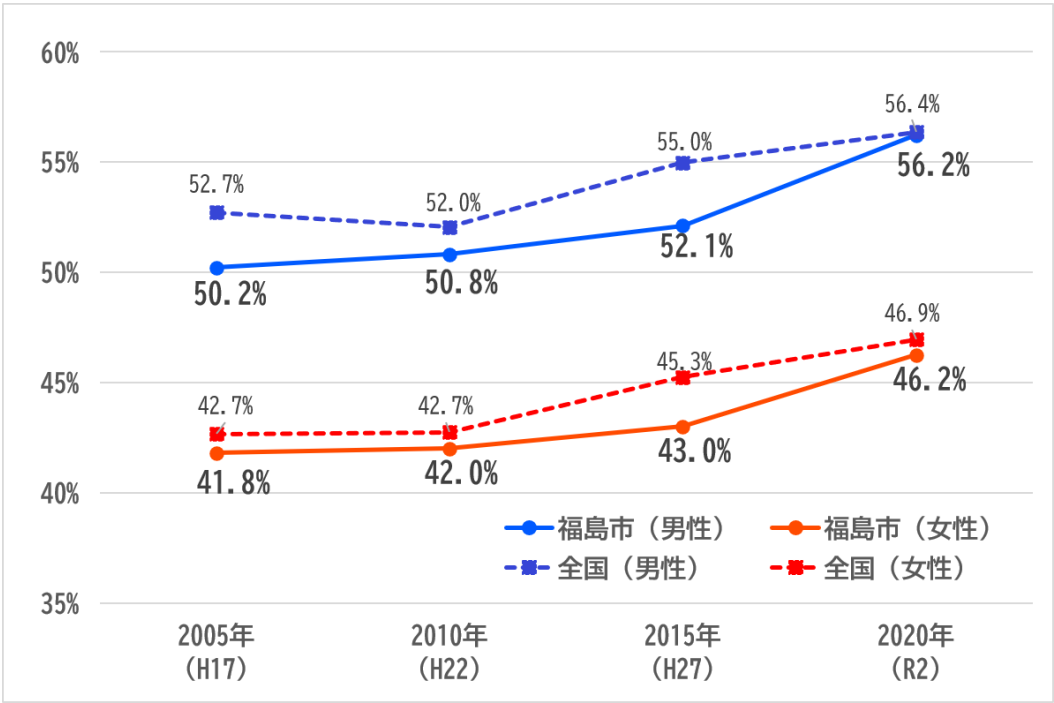
※総務省「国勢調査報告書」、厚生労働省「人口動態統計」、福島市推計人口、令和7年合計特殊出生率は本市独自の参考値

(1)合計特殊出生率:ある期間における各年齢(15～49歳)の女性の出生率を合計したもの。

③未婚率

男性、女性ともに未婚率は上昇傾向にあり、特に男性の未婚率が高くなっています。2005年(平成17年)と2020年(令和2年)を比較すると、男性、女性共に35～49歳が大きく変化しており、生涯未婚率⁽²⁾は年々高くなっています。

【15歳～49歳の未婚率の推移】



【未婚率の推移】

年齢区分	男性					女性				
	2005年(H17) ①	2010年(H22) ②	2015年(H27) ③	2020年(R2) ④	変化率 ④/①	2005年(H17) ⑤	2010年(H22) ⑥	2015年(H27) ⑦	2020年(R2) ⑧	変化率 ⑧/⑤
15～19歳	99.6%	98.9%	99.4%	99.8%	100.17%	99.3%	99.0%	98.8%	99.7%	100.36%
20～24歳	91.8%	90.6%	90.1%	95.4%	103.92%	86.9%	87.9%	87.3%	92.3%	106.22%
25～29歳	63.5%	66.6%	65.7%	73.1%	115.19%	53.6%	55.7%	55.9%	61.2%	114.14%
30～34歳	42.1%	42.9%	46.0%	50.3%	119.55%	28.8%	31.3%	32.9%	37.3%	129.52%
35～39歳	29.6%	32.0%	34.2%	39.8%	134.35%	18.1%	21.4%	23.5%	25.4%	140.10%
40～44歳	22.5%	26.0%	29.4%	31.2%	138.84%	11.6%	15.5%	19.2%	20.6%	177.78%
45～49歳	16.7%	21.6%	25.0%	29.3%	175.23%	7.7%	11.1%	15.2%	19.1%	247.67%
15～49歳	50.2%	50.8%	52.1%	56.2%	111.99%	41.8%	42.0%	43.0%	46.2%	110.64%
生涯未婚率	15.6%	19.4%	23.4%	27.2%	174.36%	7.4%	9.5%	13.3%	17.2%	232.43%

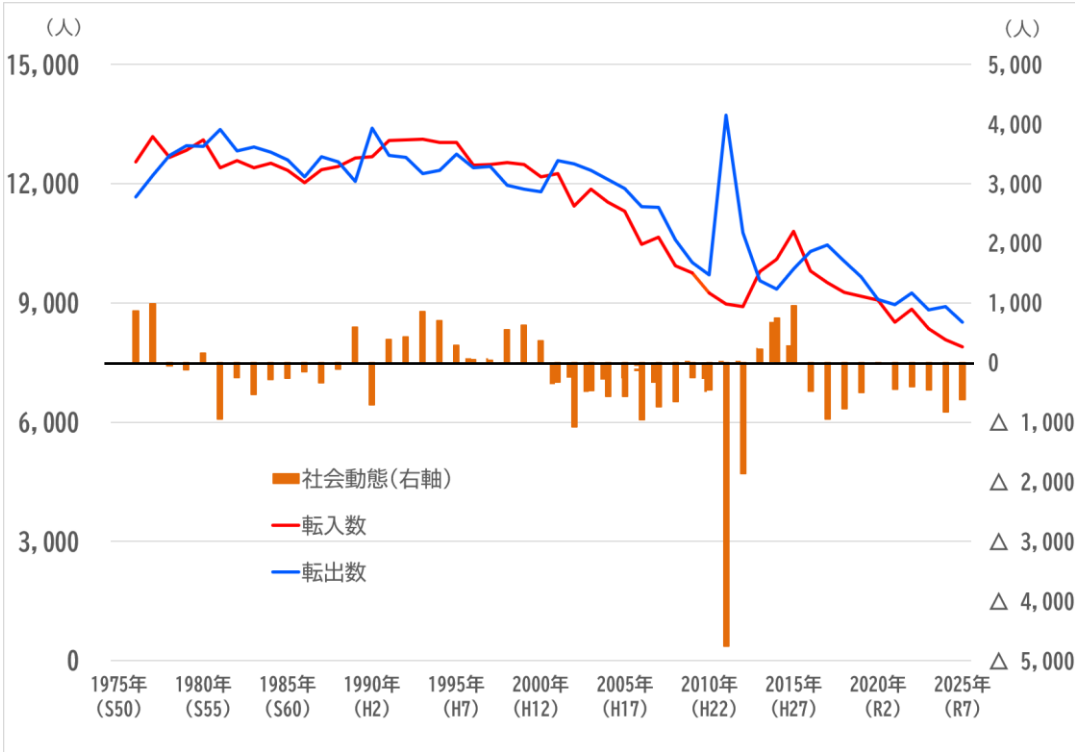
※総務省「国勢調査報告書」より作成

(2)生涯未婚率:50歳時の未婚割合

(4)社会動態

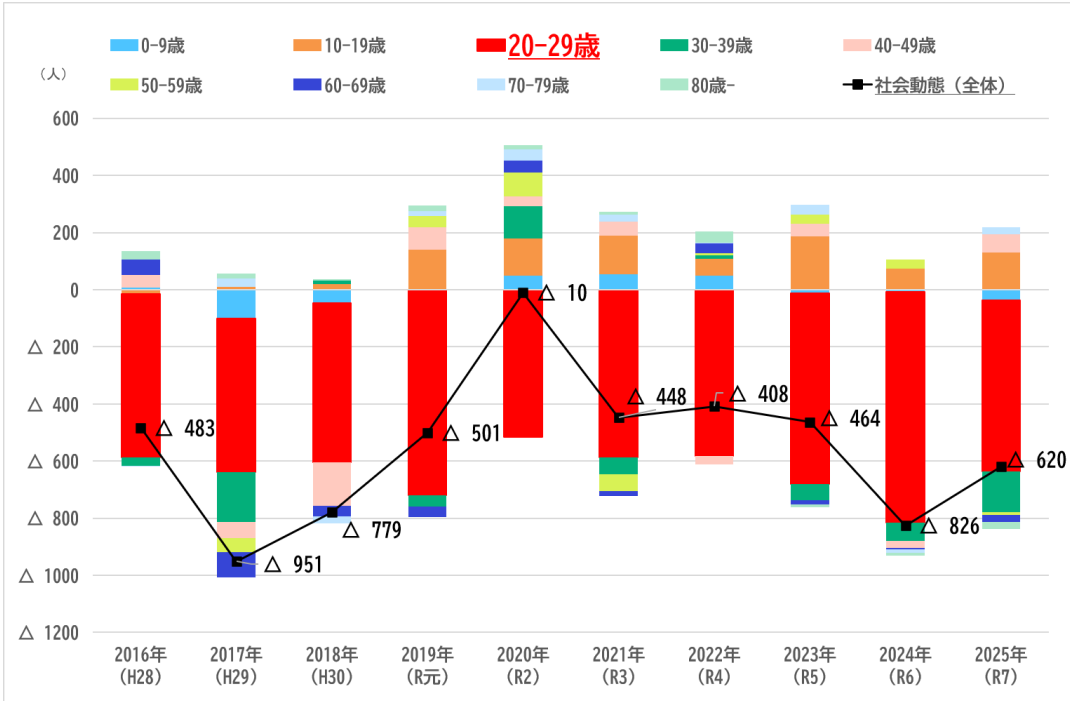
本市の社会動態⁽¹⁾は、転出超過が続いています。特に、20～24歳をはじめとした若年層の転出が多く、学校の卒業などによる就職先の影響によるものと考えられます。年齢階級別の社会動態では、転出超過が続いており、20～29歳が特に多いことがうかがえます。

【転入転出と社会動態の推移】



(1)社会動態：一定期間における市外移動及び市内移動に伴う人口の動き。

【年齢階級別社会動態の推移】



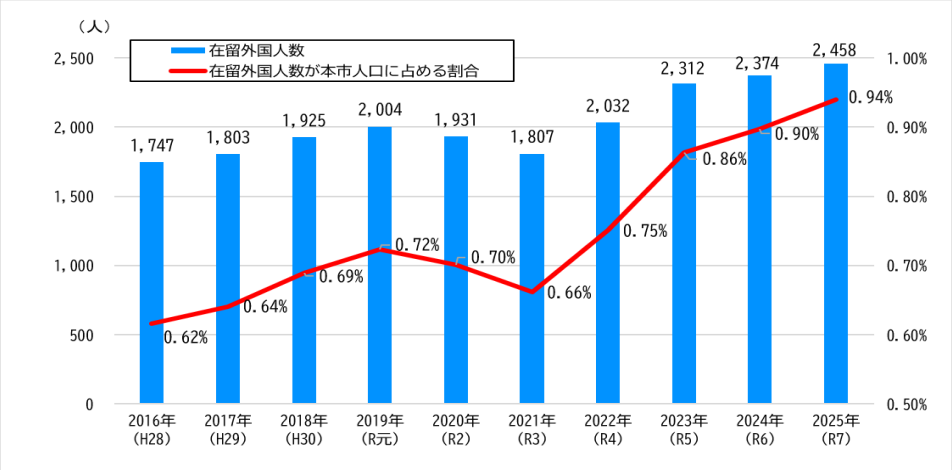
【年齢階級別 社会動態の推移】

	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R元)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	2024年 (R6)	2025年 (R7)
総数	△ 483	△ 951	△ 779	△ 501	△ 10	△ 448	△ 408	△ 464	△ 826	△ 620
20～39歳	△ 602	△ 712	△ 546	△ 756	△ 403	△ 647	△ 571	△ 725	△ 871	△ 742
0～4歳	△ 55	△ 116	△ 88	△ 32	4	△ 2	5	△ 27	△ 12	△ 33
5～9歳	62	15	42	30	46	56	43	15	4	△ 5
10～14歳	2	10	21	26	32	61	△ 6	49	17	4
15～19歳	△ 16	1	△ 1	114	98	75	67	139	56	126
20～24歳	△ 475	△ 364	△ 375	△ 596	△ 465	△ 497	△ 481	△ 412	△ 650	△ 488
25～29歳	△ 97	△ 174	△ 183	△ 122	△ 50	△ 89	△ 102	△ 256	△ 157	△ 110
30～34歳	3	△ 103	△ 4	13	92	△ 83	6	△ 31	△ 64	△ 107
35～39歳	△ 33	△ 71	16	△ 51	20	22	6	△ 26	0	△ 37
40～44歳	48	△ 8	△ 56	57	16	48	△ 9	32	△ 24	32
45～49歳	△ 4	△ 48	△ 96	22	18	0	△ 20	10	0	33
50～54歳	△ 13	△ 49	△ 21	50	4	△ 19	2	16	11	△ 41
55～59歳	14	△ 2	22	△ 11	80	△ 40	4	17	21	33
60～64歳	32	△ 65	△ 26	△ 9	16	△ 7	15	△ 18	15	△ 6
65～69歳	22	△ 23	△ 12	△ 29	25	△ 9	19	3	△ 20	△ 20
70～74歳	△ 13	12	△ 8	△ 6	46	5	2	15	△ 3	22
75～79歳	11	17	△ 15	24	△ 6	20	1	19	△ 10	2
80～84歳	3	2	10	6	13	△ 8	△ 7	6	8	△ 7
85歳～	26	15	△ 5	13	1	19	47	△ 15	△ 18	△ 18

(5)外国人の状況

日本への外国人の入国者数は、社人研⁽¹⁾の推計において、長期的に増加傾向であり、2040年(令和22年)まで年間16.4万人の入国超過が続くと仮定されています。
本市に住む外国人数は新型コロナウイルスの感染拡大の影響が収束し、東南アジア圏の外国人を中心に年々増加しています。

【本市在留外国人数及び本市人口に占める割合の推移】



※総務省「住民基本台帳人口」より作成

(6)人口ビジョン2020改訂版と実績(2020年～2025年)の比較

現在の本市の人口は、人口ビジョン2020改訂版で目標としている人口を下回っており、人口減少が加速しています。
合計特殊出生率⁽²⁾の減少に加え、若年層の転出が続いており、自然動態⁽³⁾と社会動態⁽⁴⁾の両面から少子化に歯止めがかかっていない状況です。

	項目	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
人口目標 2040年 245,536人 (A)	総人口(人)	285,196	282,943	280,691	278,438	276,186	273,933
	対前年比の減少人数(人)	—	△ 2,253	△ 2,253	△ 2,253	△ 2,253	△ 2,253
	対前年比の減少率(%)	—	△ 0.79	△ 0.80	△ 0.80	△ 0.81	△ 0.82
	合計特殊出生率	1.48	1.52	1.57	1.61	1.66	1.70
実績 (B)	社会動態(20-39歳)(人)	△ 650	△ 586	△ 522	△ 458	△ 394	△ 330
	総人口(人)	282,693	280,625	278,112	275,338	272,079	268,865
	対前年比の減少人数(人)	—	△ 2,068	△ 2,513	△ 2,774	△ 3,259	△ 3,214
	対前年比の減少率(%)	—	△ 0.73	△ 0.90	△ 1.00	△ 1.18	△ 1.18
	合計特殊出生率	1.34	1.25	1.2	1.12	1.03	1.09
実績と 目標の差 (B-A)	社会動態(20-39歳)(人)	△ 403	△ 647	△ 571	△ 725	△ 871	△ 742
	総人口(人)	△ 2,503	△ 2,318	△ 2,579	△ 3,100	△ 4,107	△ 5,068
	減少人数(人)	—	185	△ 260	△ 521	△ 1,006	△ 961
	減少率(%)	—	0.06	△ 0.10	△ 0.19	△ 0.37	△ 0.37

※総人口は各年10月1日。令和7年合計特殊出生率は本市独自の参考値。

3 将来人口推計

(1)将来の総人口と年齢3区分人口の推計

社人研推計手法に準拠して算出した本市の将来人口推計⁽⁵⁾によると、2020年(令和2年)に行った推計で2045年(令和27年)に210,389人であった将来人口推計は、2025年(令和7年)の推計では、205,547人になる見通しです。
年少人口は約1万7千人、生産年齢人口は約10万人、老年人口は約8万8千人となり、年齢3区分別の割合は、年少人口8.5%、生産年齢人口48.7%、老年人口42.8%となります。

【社人研推計手法に準拠し、2025年(令和7年)に行った将来人口推計】

項目		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
		令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年
将来人口推計 【2025年】	総人口(人)	282,693	268,865	253,427	237,834	221,770	205,547
	対前年比の減少人数(人)	—	△ 13,828	△ 15,438	△ 15,593	△ 16,064	△ 16,223
	対前年比の減少率(%)	—	△ 4.89	△ 5.74	△ 6.15	△ 6.75	△ 7.32
	年少人口 (0-14歳)	31,332	27,921	24,715	21,474	19,420	17,462
		11.1%	10.4%	9.8%	9.0%	8.8%	8.5%
	生産年齢人口 (15-64歳)	165,508	153,238	141,200	128,760	113,182	100,029
		58.5%	57.0%	55.7%	54.1%	51.0%	48.7%
	老年人口 (65歳以上)	85,853	87,706	87,512	87,600	89,168	88,056
		30.4%	32.6%	34.5%	36.8%	40.2%	42.8%

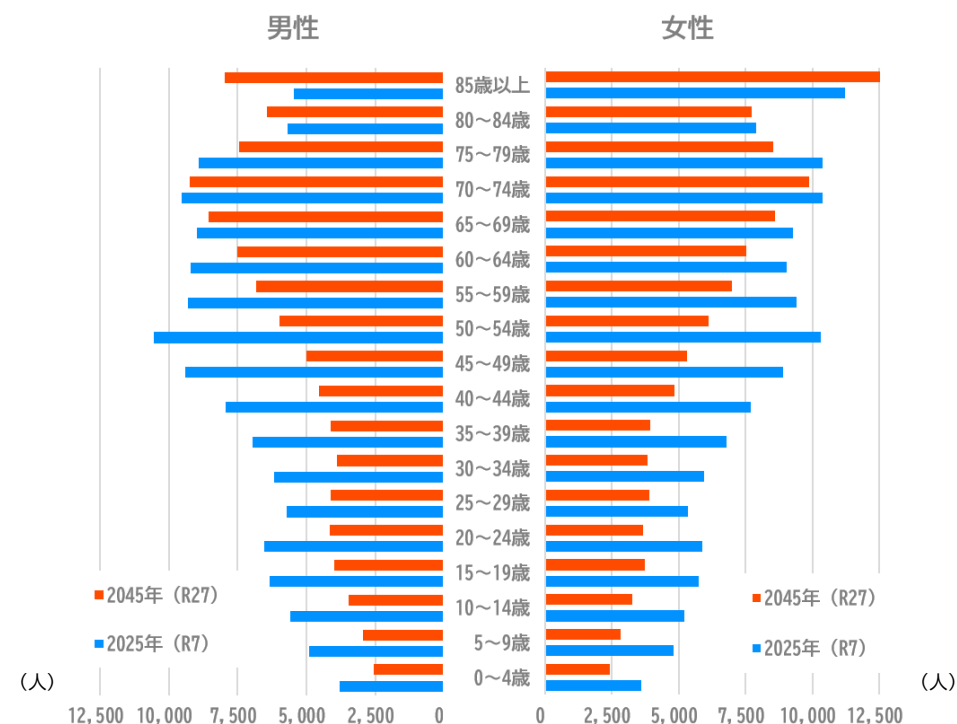
【社人研推計手法に準拠し、2020年(令和2年)に行った将来人口推計】

項目		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
		令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年
将来人口推計 【2020年】	総人口(人)	285,196	271,653	257,586	242,656	226,845	210,389
	対前年比の減少人数(人)	—	△ 13,543	△ 14,067	△ 14,930	△ 15,811	△ 16,456
	対前年比の減少率(%)	—	△ 4.75	△ 5.18	△ 5.80	△ 6.52	△ 7.25
	年少人口 (0-14歳)	31,214	28,702	26,472	24,336	21,934	19,677
		10.9%	10.6%	10.3%	10.0%	9.7%	9.4%
	生産年齢人口 (15-64歳)	165,014	152,075	139,639	126,643	111,596	99,019
		57.9%	56.0%	54.2%	52.2%	49.2%	47.1%
	老年人口 (65歳以上)	88,968	90,876	91,475	91,677	93,315	91,694
		31.2%	33.5%	35.5%	37.8%	41.1%	43.6%

(5) 将来人口推計: 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が過去の実績値を基に、総人口や年齢構成、出生率などの推移を予測する統計。社人研推計手法に準拠し、令和2年国勢調査結果による人口と令和7年10月1日現在の福島市推計人口を基に算出。

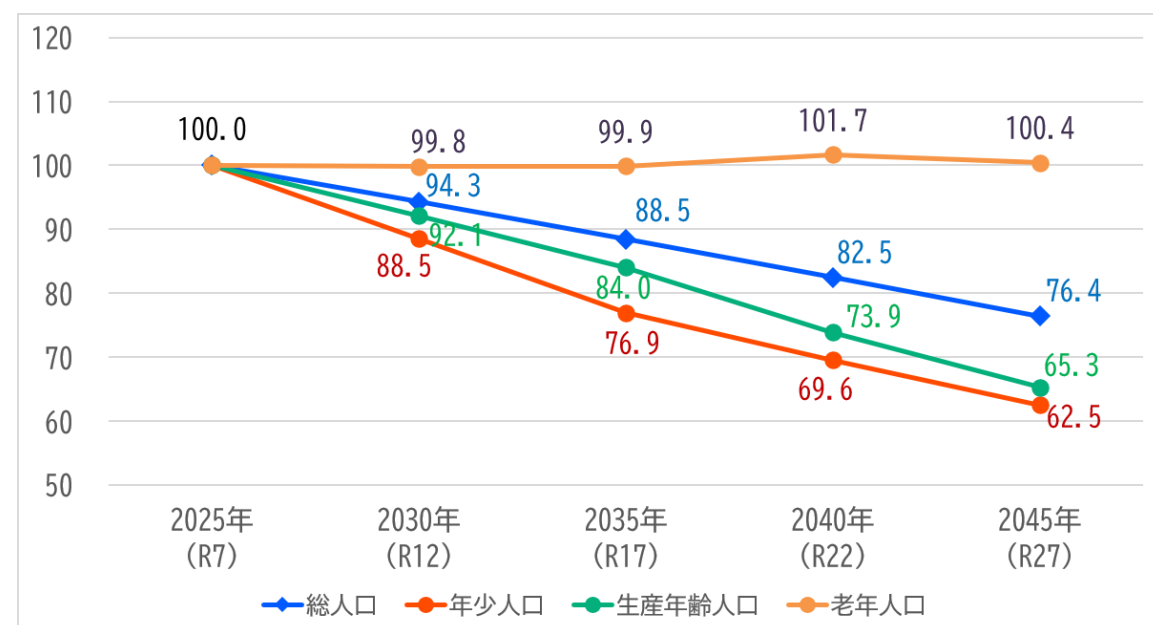
(1) 社人研: 国立社会保障・人口問題研究所。社会保障及び人口問題に関する調査及び研究を行う厚生労働省の政策研究機関。
(2) 合計特殊出生率: ある期間における各年齢(15～49歳)の女性の出生率を合計したもの。
(3) 自然動態: 一定期間における出生・死亡に伴う人口の動き。
(4) 社会動態: 一定期間における市外移動及び市内移動に伴う人口の動き。

(2)2025年と2045年の年齢階級別人口比較



(3)総人口と年齢3区分別人口の増減率

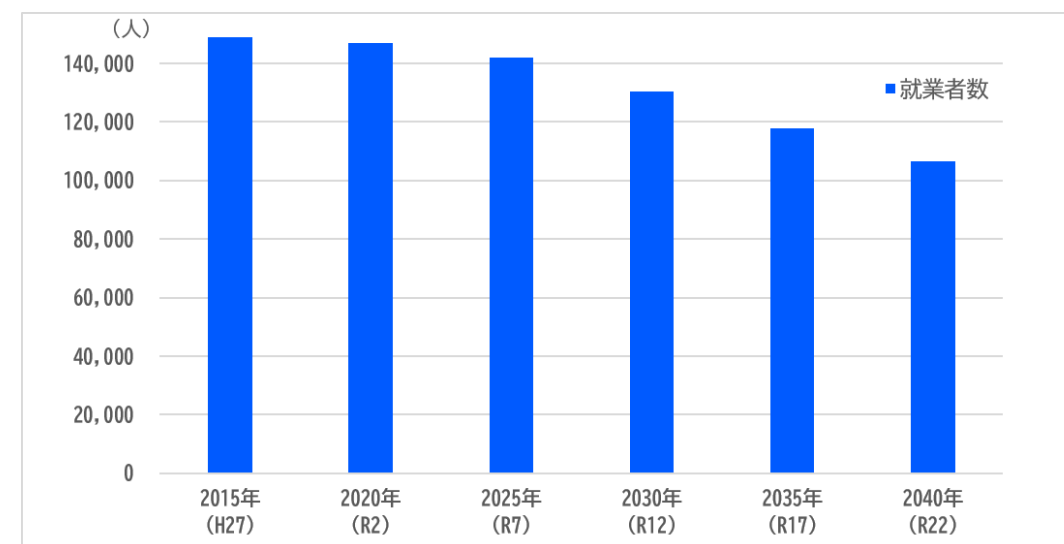
2025年(令和7年)の総人口と年齢3区分別人口を100とした場合、総人口、年少人口、生産年齢人口はそれぞれ減少しており、老年人口は2040年(令和22年)をピークに減少に転じる見通しです。



(4)人口減少と就労状況の関係

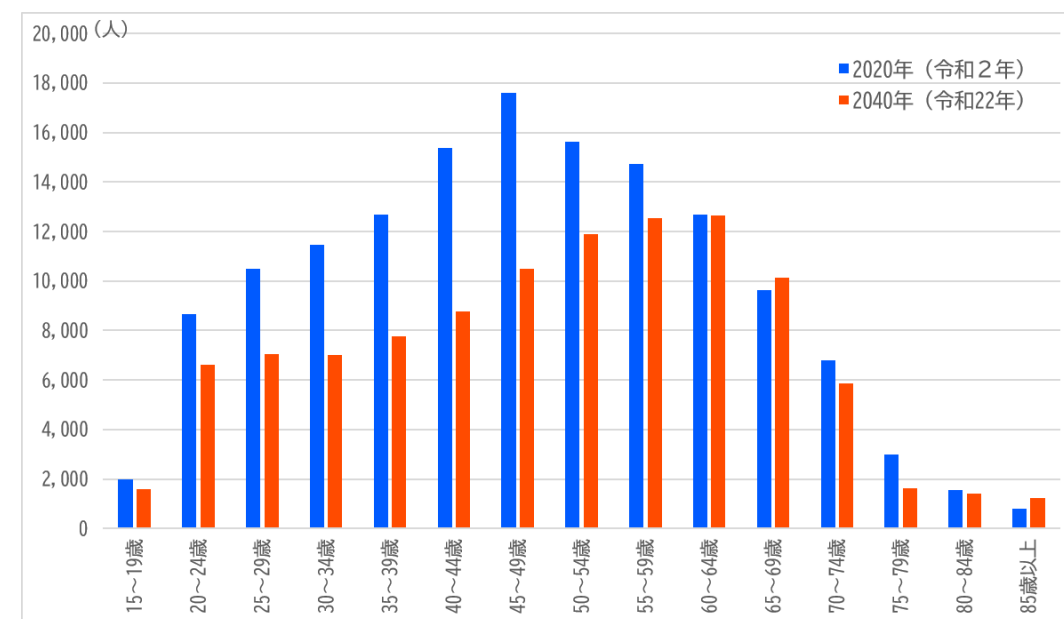
人口減少が進むことにより生産年齢人口が少なくなり、就業者数の減少や高齢化が想定されます。働き手の不足に伴い、公共交通や物流、医療や介護など、地域に必要なサービスの提供が困難になることが懸念されます。

【将来推計人口を用いた就業者数の推移】



※独立行政法人 労働政策研究・研修機構⁽¹⁾ 2023年度版 労働力需給の推計より作成

【将来推計人口を用いた就業者の年齢構成比較 2020年(令和2年)・2040年(令和22年)】



(1)独立行政法人 労働政策研究・研修機構:労働に関する事情及び労働政策についての総合的な調査及び研究などを行う厚生労働省所管の独立行政法人

4 人口目標と今後の取組の方向性

(1) 基本的な考え方

人口減少は、全国的な課題であり、その影響は、大きくなりつつありますが、一方で、社会のあり方を見直すひとつの転機でもあります。今後は、人口減少を可能な限り緩やかにするとともに、人口減少社会に適応し、市民一人ひとりの豊かさを高めることが重要となります。

福島市は、①人口減少を緩やかにする戦略と②人口減少社会に適応する戦略を両輪として捉え、まちづくりを進めていきます。

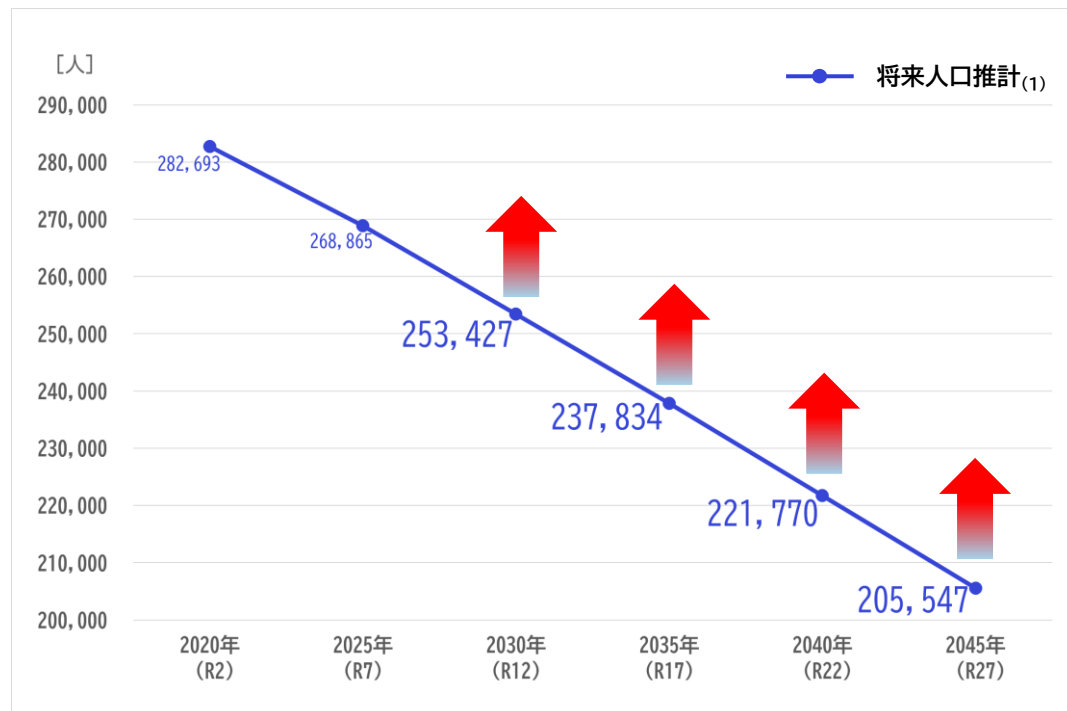
市民一人ひとりが希望する人生を送ることができ、若者や多様な人材から選ばれる環境を構築するとともに、人口が減少しても、一人ひとりの能力や可能性を伸ばしながら、学び、働き、挑戦し、活躍できる社会を目指します。

これらの取組により、人口減少時代における福島市の持続的な発展につなげていきます。

(2) 目標の設定

人口減少は、社会構造の変化における1つの事象として受け止め、次の目標を掲げます。

◆目標: 将来人口推計を可能な限り上回る



(1) 将来人口推計: 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)が過去の実績値を基に、総人口や年齢構成、出生率などの推移を予測する統計。社人研推計手法に準拠し、令和2年国勢調査結果による人口と令和7年10月1日現在の福島市推計人口を基に算出。

(3) 取組の方向性について

人口減少対策として以下の2本柱を掲げ、まちづくりを進めていきます。

対策の2本柱

①人口減少を緩やかにする		②人口減少社会に適応し、一人ひとりの可能性を最大化する	
目指す姿	市民一人ひとりが希望するライフプランを実現できる社会	目指す姿	人口が減少しても、市民一人ひとりが能力を発揮し、豊かに暮らせる社会
方向性	【自然動態への対応】 (i)希望する人生設計の実現 (ii)健康寿命の延伸	方向性	【社会動態への対応】 (i)生産性向上 (ii)人材への投資 (iii)誰もが活躍できる環境づくり (iv)高付加価値産業の創出 (v)官民連携・広域連携による課題解決 (vi)都市機能の集約と再編

《取組の内容》

(i) 希望する人生設計の実現

出会いや結婚、出産、子育てに対する希望があっても、経済的・社会的理由などによって実現できない状況があります。福島市は個人の選択を尊重しながら、希望する人生設計を実現できる環境づくりを進めます。

(ii) 健康寿命⁽¹⁾の延伸

高齢化が進む中、市民が健康で自立した生活を送れる環境を整えます。

(iii) 若者の定着促進

若者が地域に魅力ある仕事や挑戦の機会を見出し、福島市で働き暮らし続けたいと思える環境づくりを進めます。

(iv) 移住・定住促進

福島市の魅力を発信するとともに、多様なライフスタイルに応じた受入環境を整え、新たな人の流れを創出します。

(v) 関係人口・交流人口拡大

観光や地域活動などを通じて福島市との接点を増やし、継続的につながる人の輪を広げます。

(vi) シビックプライド醸成

地域での学びや挑戦、成功体験を通じて福島への愛着と誇りを育み、将来にわたる地域とのつながりを深めます。

(i) 生産性向上

デジタル技術、AI⁽²⁾や新たな仕組みを活用し、市民生活や産業、行政サービスの生産性向上を図ります。

(ii) 人材への投資

変化の激しい時代に対応できる人材を育成し、市民一人ひとりの能力向上を支援します。

(iii) 誰もが活躍できる環境づくり

年齢や性別、国籍などにかかわらず、多様な人材が能力を発揮できる社会を目指します。

(iv) 高付加価値産業の創出

地域資源や強みを生かし、産業の高付加価値化と持続可能な成長を目指します。

(v) 官民連携・広域連携による課題解決

企業や他自治体などと連携し、それぞれが持つ強みを共有しながら、地域の課題解決を図ります。

(vi) 都市機能の集約と再編

日常生活に必要なサービス・インフラ⁽³⁾を維持するため、医療、商業、公共交通などの都市・生活機能の集約と拠点間をつなぐ公共交通網の再編・維持に取り組み、まち全体の最適化を図ります。

(1) 健康寿命: 健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。

(2) AI: 人工的に作られた人間のような知能や技術のこと。Artificial Intelligence(アーティフィシャル インテリジェンス: 人工知能)の略称。

(3) インフラ: "infrastructure"(infra-「下に、下部に」、structure「構造、機構」)道路、鉄道、上下水道、電気、ガス、通信網のほか、学校、病院、公営住宅、公園などの市民生活や企業活動の基盤となる施設。